

文化庁日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業
事業報告書

事業区分：日本語教育人材の研修カリキュラム開発

研修の種類：②留学生に対する日本語教師【初任】研修

事業名：留学生に対する日本語教師【初任】研修カリキュラム開発事業

団体名：一般社団法人全国日本語教師養成協議会

実施期間：令和元（2019）年9月4日～令和2（2020）年3月20日

令和2（2020）年5月28日～令和3（2021）年3月19日

令和3（2021）年6月7日～令和4（2022）年3月18日

目次

1. はじめに.....	3
2. 事業概要.....	4
2-1. 事業の名称.....	4
2-2. 事業の背景.....	4
2-3. 事業の目的.....	7
2-4. 事業の実施期間と内容.....	7
2-5. 事業内容の概要.....	7
2-6. 教育内容の検討.....	8
2-7. 教材の検討・開発.....	9
2-8. 養成・研修の実施.....	11
2-9. 事業全体の成果の評価.....	14
3. 教育課程の検討.....	15
3-1. カリキュラム検討委員会 実施報告.....	15
3-1-1. 事業の実施計画.....	15
3-1-2. 教育課程の編成.....	16
4. 研修カリキュラムの開発.....	17
4-1. 教材検討委員会 実施報告.....	17
4-2. 研修カリキュラム開発概要.....	18
4-2-1. 研修カリキュラムの目標.....	18
4-2-2. 研修カリキュラムのねらい.....	18
4-3. 本事業開発研修カリキュラム.....	20
4-3-1. 本事業開発研修カリキュラムの構成.....	20
4-3-2. eラーニング科目.....	21
4-3-3. eラーニング科目の特徴.....	23
4-3-4. eラーニング科目の進め方.....	24
4-3-5. オンライン参加型研修科目／自己研修課題.....	24
4-3-6. オンライン参加型研修科目／自己研修課題の特徴.....	25
4-3-7. オンライン参加型研修科目／自己研修課題の進め方.....	25
5. 養成・研修の実施.....	26
5-1. 受講者の募集と選考.....	26
5-2. 研修の事前準備.....	30
5-2-1. 学習管理システム「eden」の環境整備.....	30
5-2-2. オンライン参加型研修担当講師との事前打合せ.....	31
5-3. 研修の実施.....	32

5-3-1. 開講式／オリエンテーション	32
5-3-2. eラーニング研修	37
5-3-3. オンライン参加型研修／自己研修	50
5-4. 評価ツール	59
5-4-1. セルフチェックシート	59
5-4-2. 受講者アンケート	60
5-4-3. 研修記録	70
6. 事業全体の成果の評価	72
6-1. 事業評価委員会 実施報告	72
6-2. 研修のねらいの達成に関する評価	72
6-3. 研修内容に関する評価	74
6-4. 受講生の変容に関する評価	75
6-5. 今後の課題	76

1. はじめに

本事業は、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』（平成31年3月4日文化審議会国語分科会）の「留学生に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」の普及を図るべく開発されたものである。

日本語教師として初任の者を対象として、留学生への日本語教育の前提となる知識、実践的技能、態度について、90単位時間という限られた時間の研修を通して獲得することを目指すというよりも、協働的活動を通して理解を深め、将来的な獲得に繋がる基本姿勢の形成を図ることを目論んだ。

具体的には、90単位時間の研修をeラーニング50単位時間とオンライン参加型研修26単位時間、自己研修14単位時間で構成し、国内、海外といった住居地に制約なく、現職者も参加しやすい研修とした。参加者は学習管理システムであるLMSにアップされているeラーニング教材動画を視聴し、理解度チェックテストを受験して理解を深め、オンライン科目に付随する自己研修では、個人またはグループで課題に取り組み、Zoomを使用した双方向のオンライン参加型研修に臨む形で展開された。

研修は令和4（2021）年7月初旬から11月下旬までのほぼ5か月で展開されたが、研修の最初と最後にはセルフチェックシートで研修の前後の成長が見える化された。研修開始翌月から研修終了までの4か月の間に計7回のオンライン参加型研修を入れて参加者同士の相互交流も促し、研修途中に随時受講状況のアンケートを実施し、参加者同士が励まし合う機会を設けたり、事務局からも参加者に対して声掛けを行ったりして、参加者がモチベーションを持続させ、学びが深められるよう配慮した。

本事業の実施に当たっては、カリキュラム検討委員会、教材検討委員会、研修実施委員会、研修事業評価委員会の4つの委員会を組織した。委員には、日本語教育の有識者、日本語教育機関の経営者、日本語教師養成の実践経験者が名を連ね、研修を主催する一般社団法人全国日本語教師養成協議会が日本語教師の実践力について検討を深め、各種セミナーを開催し、日本語教師検定を開発、実施し、関連教材を開発してきた経験の蓄積と豊富な人的リソースを十全に活用し、実践的且つ効果的な研修プログラムの実現を目指した。本報告書において各委員会の活動内容と研修実施状況、今後の課題等を詳らかにする。

令和4年3月
一般社団法人全国日本語教師養成協議会

2. 事業概要

2-1. 事業の名称

日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業
「留学生に対する日本語教師【初任】研修カリキュラム開発事業」

2-2. 事業の背景

平成 12（2000）年文化庁の日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議において『日本語教育のための教員養成について』が取り纏められ、日本語教員養成の新たな教育内容（以下、「平成 12 年の新たな教育内容」）が示されたが、一般社団法人全国日本語教師養成協議会（以下、全養協）はその翌年に 420 時間以上の日本語教師養成講座を主催する機関が集まって任意団体として設立された。

420 時間以上の日本語教師養成講座は、「平成 12 年の新たな教育内容」から遡ること 15 年前の昭和 60（1985）年に当時の文部省の日本語教育施策の推進に関する調査研究会が取り纏めた「標準的な教育内容」を基にしていたが、それから 15 年の間に入管法改正に伴う日系人の増加を始め、日本語学習者の多様化が進み、それに対応する日本語教育内容と教授法の改善が期待され、情報メディアの活用や、社会言語学、心理学、コミュニケーション学等の知見の応用と、従来の枠組みに囚われない多様な教育課程の編成が要請されるようになった。

こうして「平成 12 年の新たな教育内容」が示されるに至ったが、そこでは従来の主専攻、副専攻の区別や標準単位数は示されず、養成する日本語教師が活躍する日本語教育の現場に応じて日本語教員養成の教育内容も選択可能とされ、多様な教育課程の編成が期待されることとなった。

そうした中で、全養協としては、420 時間以上の日本語教師養成講座の唯一の業界団体として、当初から日本語教師の実践的な教育能力（実践力）を追求すべきテーマとして掲げ、実践力を形成する要素を以下の通りとした。

1. 専門的能力

……日本語のルール・教授法・授業展開等に関する知識とそれに基づく分析力・実践力

- ① 学習項目の意味・用法・ルールを理解しているか。また、分析ができるか。
- ② 実際に使われている日本語を意味・用法・ルールの観点から分析できるか。
- ③ 提示する例文が意味・用法・ルールの観点から適切であるか否か判断できるか。
- ④ 学習者の誤用を的確に分析できるか。
- ⑤ 授業の展開を自ら組み立てることができるか。また、授業の展開を自然に構成できるか。

- ⑥ それぞれの学習活動(教室活動)[文型練習、ロールプレイ等]の特徴を理解しているか。
- ⑦ 教材・教具の特徴を理解しているか。また、教材を分析する力があるか。

2. 指導能力

……専門的能力を実際の学習者を前にして駆使できる力

- ① 学習者のレディネスを把握し、そのレベルに合った日本語を使って授業が展開できているか。
- ② 授業の展開が教師の独り善がりや強引な展開になっていないか。
- ③ 無駄な説明が多いなど教師の説明が必要以上に長くなっていないか。
- ④ 学習活動(教室活動)の目的に合わせて、学習者とのインターアクションの形態を効果的に変えているか。
- ⑤ 板書を学習者に分かりやすく(効果的な板書の仕方、無駄な板書、板書が必要なときにしない、字は正確か、字に誤りはないか)しているか。
- ⑥ 学習項目の意味・用法、ルールが間違いなく適切に伝えられているか。
- ⑦ 学習者にとって学習項目の意味・用法が理解しやすい適切な例文が作れるか。
- ⑧ 学習項目を実際にそれがよく用いられる場面・状況・文脈などを考慮し、提示できるか。
- ⑨ それぞれの学習活動(文型練習・ロールプレイなど)の特徴を理解した上で、それを適切に用いているか。
- ⑩ 学習活動(教室活動)の指示が学習者に的確に伝えられるか。
- ⑪ 学習項目が定着したか否かの確認ができているか。
- ⑫ 授業の目的に応じて適切な教具・教材を用いているか。
- ⑬ 教具・教材を学習者に分かりやすく見せているか。
- ⑭ 教具・教材の整理がなされ、スムーズに学習者に提示しているか。
- ⑮ 学習者を指名する場合、効果的に指名をしているか。偏りなどはないか。
- ⑯ 学習者あるいは学習者集団(クラス)をリードする力があるか。

3. 学習者への対応能力

……学習者を観察する力・学習者と相互にやりとりする力

- ① 学習者がどの程度、学習項目、教師の発話を理解しているかを把握できるか。
- ② インターアクションが教師から学習者へ一方的でなく、学習者とのコミュニケーションを図りながら、学習者からの自発的な発話を促しているか(学習者の発話を引き出すようにしているか)。
- ③ 教案を必要以上に見たり、教案にとらわれすぎたりして、学習者と本当のコミュニケーションがとれていないことはないか。自然なコミュニケーションになっているか(形式的な相槌など)。
- ④ 教師の学習者に対する態度は適切か(公平性・威圧的・無関心・否定的・子供扱い)。

4. フィードバック能力

……学習者の発話等に対して評価し適切に対応する力

- ① 教師が学習者に発話させた場合、学習者の発話に対して教師がした評価を学習者に伝えているか。
- ② 学習活動（教室活動[文型練習、ロールプレイ など]）の中で、問題（誤用等）があった場合、それに気づき、それに対して適切な対応やフォローをしているか。

5. パフォーマンス能力

……学習を促進する雰囲気を作る力

- ① 教師の声の大きさ、話す速さは適切か。発話は明瞭か。
- ② 顔の表情、体の動き、話し方が学習者に違和感を与えず自然であるか。
- ③ 学習者に教師の発話の意味を伝えるためのジェスチャーが適切か。
- ④ 学習者と教師が適切な距離を保っているか。適切な距離（物理的・心理的）で接しているか。
- ⑤ 学習者を引きつけ、飽きさせず、楽しく、授業に参加させられているか。

6. 自己育成能力

……教師として自己を成長させられる能力

- ① 授業（自己・他者）の展開を客観的に分析し、改善することができるか。
- ② 学習者とのコミュニケーション（自己・他者）が適切であるか否かを分析することができるか。

そして、このような日本語教師の実践力を測定する検定試験として、2006年から全養協日本語教師検定を実施し、今日に至っている。

「平成12年の新たな教育内容」から20年程の間に日本語学習者の増加と多様化は更に進展し、国内の外国人受入拡大に伴い、多文化共生社会の実現に向けた取り組みも広範に展開されるようになり、日本語教育の必要性も更に認識されるようになってきた。

こうした中で『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』（平成31年3月4日文化審議会国語分科会）が示され、留学生を指導する初任の日本語教師を対象とした教育内容として「留学生に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」と教育課程編成の目安が示された。全養協加盟の日本語教師養成講座の修了生の多くは留学生を指導する日本語教師として日本語教育現場で活躍しており、全養協としてこれまで追求してきた日本語教師の実践力錬成に関する知見を活かし、本事業を展開することとなったものである。

2-3. 事業の目的

本事業の目的は、「日本語教師【養成】」を修了した者で、新たに留学生に対する日本語教育に携わる者を対象に、文化審議会国語分科会による「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」に基づき、「知識」、「技能」、そして「態度」を有する人材の育成が可能となる研修モデルを構築することである。

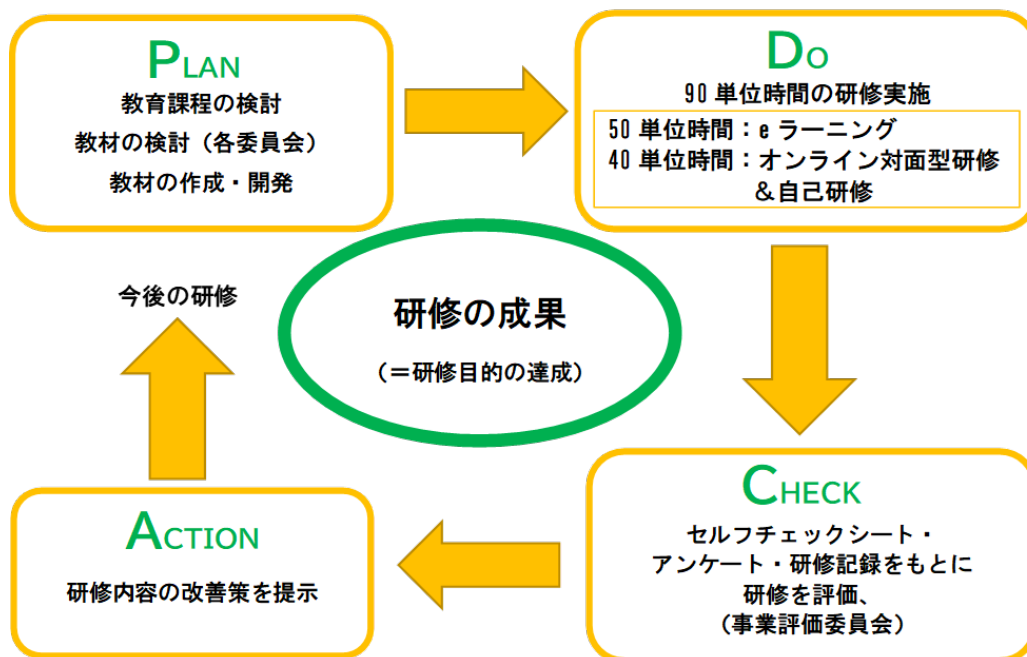
昨今、日本語教育機関の急増により、マニュアルがないと教えられない(もしくは、マニュアル通りにしか教えられない)、という教師が増えているという指摘がある中、全養協は「日本語教師の実践力（日本語教師のスキル）」を高めることをテーマに掲げて活動してきた。全養協加盟機関が主催する日本語教師養成講座では、これまでに日本語学習者を指導する多くの日本語教育人材を輩出してきた。そして、加盟機関のほぼ全てが日本での進学や就職等を目指す留学生を対象とした日本語教育を実践する場も持っている。本事業を通して、日本語教師養成と日本語教育を実践してきた加盟機関の知見と経験も活用して、日本語教師が「留学生」を対象とした日本語教育の現場で求められる実践的知識と、効果的な教授技術能力を精査し、それらを高めることを目指した。また、「全養協日本語教師検定」を開発実施し、関連教材も開発してきた経験を活かし、自身の授業を内省し、得られた気づきを次の実践に活かす、という行動パターンを有した成長できる日本語教師の育成を目指した。

2-4. 事業の実施期間と内容

第1期	令和元（2019）年9月4日～令和2（2020）年3月20日 教育課程の検討
第2期	令和2（2020）年5月28日～令和3（2021）年3月19日 教材の検討・開発
第3期	令和3（2021）年6月7日～令和4（2022）年3月18日 教材の検討・開発、養成・研修の実施、事業全体の成果の評価

2-5. 事業内容の概要

本事業は、研修カリキュラムの検討、研修教材の検討・開発、研修の実施、研修事業の評価の4項目から成り、PDCAサイクルを用いて、より質の高い研修カリキュラム開発を目指した。



- 1) 日本語教師養成と様々な教師研修等に長年携わってきたメンバーと日本語教育界の有識者からなる研修カリキュラム検討委員会において、効率的且つ効果的な教育課程の編成を検討した。
- 2) 研修教材検討委員会において、留学生の日本語指導及び日本語教師養成に十分な経験を有する日本語教師を中心に教材及び教材執筆者を検討した。その上で各科目に最適な有識者が教材の執筆・作成を行い、受講者が主体的且つ自律的に学べる e ラーニング教材の開発を行った。
- 3) 研修教材検討委員会において、留学生の日本語指導及び日本語教師養成に関して十分な経験を有する日本語教師と有識者が共に、対面のオンライン参加型研修・自己研修（実践・演習科目）の内容および教材の検討・開発を行った。
- 4) 留学生の日本語指導及び日本語教師養成に関して十分な経験を有する日本語教師を中心として対面型研修を実施した。
- 5) 90 単位時間の研修実施後、受講者のアンケート、研修担当者の実施記録等をもとに研修事業全体を研修事業評価委員会が評価し、今後の研修の普及に向けて、より質の高い研修カリキュラムへの改善を目指した。

2-6. 教育内容の検討

1) 委員会の設置

「留学生に対する日本語教師【初任】研修カリキュラム検討委員会」を設置し、研修カリキュラムの検討を行った。

2) 実施期間

令和元（2019）年9月4日～令和2（2020）年3月20日

3) 委員会構成員

（令和元年9月4日現在）

委員長	吉岡正毅	一般社団法人全国日本語教師養成協議会	代表理事
委員	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院	教授
委員	黒崎誠	ラボ日本語教育研修所	所長
委員	生方哲男	東京中央日本語学院	教務部長
委員	新山忠和	一般社団法人全国日本語教師養成協議会	事務局長
委員	早川聡子	千駄ヶ谷日本語教育研究所	教材開発委員長
委員	関川貴子	千駄ヶ谷日本語学校	日本語教育部長
委員	内田美和子	一般社団法人全国日本語教師養成協議会	事務局

4) 具体的な検討方法

研修カリキュラム検討はPDCAサイクルの【Plan】にあたる。本事業の目的とする人材の育成をする上で要となる検討であり、研修内容だけでなく実現可能性を担保するためにも、十分な時間をかけて検討を行った。

研修カリキュラム検討委員会の現場経験の豊富な中核メンバーにおいて研修内容の下案を作成し、その後、専門的な知識を有する委員と共にカリキュラム検討委員会で効率的且つ効果的な研修カリキュラムの検討を行った。

2-7. 教材の検討・開発

1) 委員会の設置

「留学生に対する日本語教師【初任】研修教材検討委員会」を設置し、研修で使用する教材の検討・開発に取り組んだ。

2) 実施期間

令和2（2020）年5月20日～令和3（2021）年3月19日

令和3（2021）年6月7日～令和3（2021）年6月30日

3) 委員会等構成員

(令和2年5月20日現在)

委員長 原稿執筆	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院	教授
委員 原稿執筆	黒崎誠	ラボ日本語教育研修所	所長
委員	生方哲男	東京中央日本語学院	教務部長
委員 原稿執筆	新山忠和	一般社団法人 全国日本語教師養成協議会	事務局長
委員 原稿執筆	早川聡子	千駄ヶ谷日本語教育研究所	教材開発委員長
委員 原稿執筆	関川貴子	千駄ヶ谷日本語学校	日本語教育部長
委員 原稿執筆	吉川正則	一般社団法人 全国日本語教師養成協議会	問題編集委員
委員	谷貝あいり	一般社団法人 全国日本語教師養成協議会	事務局
講義 原稿執筆者	大塚豊	福山大学	副学長 大学教育センター長
講義 原稿執筆者	西谷まり	一橋大学	教授
原稿執筆者	林千賀	城西国際大学	教授
原稿執筆者	尾本康裕	城西国際大学	准教授
講義 原稿執筆者	宇佐美洋	東京大学大学院 総合文化研究科	教授
講義 原稿執筆者	深澤のぞみ	金沢大学	教授
講義 原稿執筆者	小林ミナ	早稲田大学大学院	教授
講義 原稿執筆者	島田めぐみ	日本大学大学院 総合社会情報研究科	教授
講義 原稿執筆者	嶋田和子	一般社団法人 アクラス日本語教育研究所	代表理事

講義 原稿執筆者	小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所	副所長
講義 原稿執筆者	黒崎亜美	ラボ日本語教育研修所	講師

4) 具体的な教材の検討・開発方法

研修カリキュラム検討と同様に PDCA サイクルの【Plan】にあたる教材の検討・開発であるが、より効果的に人材を育成する研修を実施するために、教材検討委員会は原稿執筆者、オンライン参加型研修担当講師と協働して、eラーニングおよびオンライン参加型研修で使用する教材の検討・開発に取り組んだ。

- ① 研修カリキュラム検討委員会において検討された各科目の内容や時間配分に沿って、eラーニングおよびオンライン参加型研修の教材検討を行った。まず、現場経験の豊富な中核メンバーにおいて研修内容の下案を作成し、その後、専門的な知識を有する委員と共に研修教材検討委員会において各科目の到達目標を明確にし、原稿執筆者の検討と選定を行った。
- ② ①での検討に基づき選定した原稿執筆者に対して原稿執筆の依頼を行い、原稿を受領した。また、オンライン参加型研修で使用する教材についても研修担当講師に作成を依頼した。
- ③ ②にて受領した原稿を基に、eラーニング教材の作成を進めた。
- ④ 作成されたeラーニング教材の内容について、その適否を検討し、必要に応じた修正を行った。

2-8. 養成・研修の実施

1) 実施期間

令和3(2021)年7月1日～11月30日

【研修実施期間】令和3(2021)年7月10日～11月27日

2) 研修の目標

「日本語教師【養成】」を修了した者で、新たに留学生に対する日本語教育に携わる者を対象に、留学生に対する日本語教育の「知識」、「技能」、そして教育者たる「態度」を有する人材の育成を目標とした。

また、留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化を理解し、キャリア支援という観点から、日本語教育だけでなく留学生が社会とつながる機会がもてるよう工夫のできる日本語教師の育成を目標とした。

その目標を達成すべく、現職者である受講生が自身の生活スタイルに合わせて任意の時間およびペースで学習できる「eラーニング」と「オンライン参加型研修」を通して、主体的且つ協働的に学べるよう工夫した。

3) 研修担当

① eラーニング科目

(令和3年7月1日現在)

伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表	評価法
宇佐美洋	東京大学 大学院総合文化研究科 教授	論文の指導法
大塚豊	福山大学 学長	日本と海外の教育制度の違い
尾本康裕	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授	留学生のための教材・教具のリソース 1-4
勝間田恵美 ほか3名	千駄ヶ谷日本語学校専任教員	進路選択関連情報—留学生の進学
黒崎亜美	公益財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所 講師	日本語の試験—日本留学試験 (EJU)
黒崎誠	公益財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所 所長	日本語の試験—日本語能力試験 (JLPT)
小林ミナ	早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授	漢字語彙の指導法 対象レベル別指導法 (総論)
小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長	著作権
阪上央成 ほか3名	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校専任教員	進路選択関連情報—就活指導
嶋田和子	一般社団法人アクラス日本語教育研究所 所長	法務省告示日本語教育機関の歴史と現状
島田めぐみ	日本大学大学院総合社会情報研究科 教授	統計処理 (テスト・評価・成績管理)
新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長	留学生教育の変遷と在留資格 法務省告示日本語教育機関の告示 基準 日本語の試験—ビジネス日本語の試験

西谷まり	一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター 教授	進路選択関連情報—キャリア教育 青年期学習者の成長と発達
林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授	異文化間トレランス メンタル・カウンセリング 留学生のための教材・教具のリソース 5-6
深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授	議論の指導法、口頭発表の指導法
吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長	自己点検の指導法

② オンライン参加型研修／自己研修

(令和3年7月1日現在)

伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表	演習—評価法
宇佐美洋	東京大学 大学院総合文化研究科 教授	演習—論文の指導法
生方哲男	東京中央日本語学院 教務部長	演習—音声の指導法
小田金欣也	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 就職支援室長	留学生の進学・就職指導
尾本康裕	城西国際大学 留学生別科 准教授	留学生のための教材・教具のリソース
林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授	メンタル・カウンセリング
深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授	演習—議論の指導法 演習—口頭発表の指導法
吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長	演習—自己点検の指導法 演習—対象レベル別指導法ケーススタディ 演習—振り返り

2-9. 事業全体の成果の評価

1) 委員会の設置

「留学生に対する日本語教師【初任】研修事業評価委員会」を設置し、本事業全体の評価を行った。

2) 実施期間

令和3（2021）年12月1日～令和4（2022）年3月18日

3) 委員会構成員

（令和3年12月1日現在）

委員長	西原鈴子	特定非営利活動法人日本語教育研究所	理事長
委員	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院	教授
委員	齋藤ひろみ	東京学芸大学教育学部	教授
委員	黒崎誠	ラボ日本語教育研修所	所長
委員	新井永範	赤門会日本語学校	マーケティング部 部長
委員	阪上央成	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校	教務部長
委員	新山忠和	一般社団法人全国日本語教師養成協議会	事務局長
委員	内田美和子	一般社団法人全国日本語教師養成協議会	事務局

4) 評価の概要

カリキュラム等検討や教材開発に関わっていない委員を中心とした研修事業評価委員会において行い、より客観的且つ公正な事業評価となるよう努めた。

本事業の科目は、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」に記載のある資質と能力を育むことを前提に設計されている。各科目に該当する資質と能力が設定されているので、適切な研修内容であったのか、研修内容の評価のほか、研修事業全体の運営方法（全てオンラインでの実施）等が適切であったのか、改善できることはないか、今後の研修事業をより良いものへと進化させるために評価を受けた。

3. 教育課程の検討

留学生に対する日本語教師【初任】研修カリキュラム検討委員会（以下、カリキュラム検討委員会）を開催し、本事業の実施計画と教育課程の編成について検討し決定した。

カリキュラム検討委員会

- ・第1回 2019年10月3日（中核メンバー）
- ・第2回 2019年10月29日
- ・第3回 2019年11月11日（中核メンバー）
- ・第4回 2019年11月26日

3-1. カリキュラム検討委員会 実施報告

3-1-1. 事業の実施計画

実施計画（3か年全体ならびに2019年度）の検討にあたっては、後述する（a）教育課程の検討、（b）教材の検討・開発、（c）養成・研修の実施、（e）事業全体の成果の評価について、下記のように計画を立てた。

●事業全体の実施計画

実施期間	令和元年度				令和2年度				令和3年度			
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
(a)教育課程の検討		→										
(b)教材の検討・開発					→				→			
(c)養成・研修の実施									→			
(d)その他関連する取組												
(e)事業全体の成果の評価												→

●2019年度の計画

実施期間	令和元(2019)年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
(a)教育課程の検討						→							
(b)教材の検討・開発													
(c)養成・研修の実施													
(d)その他関連する取組													
(e)事業全体の成果の評価													

(a)教育課程の検討 【カリキュラム検討委員会】

日本語教師養成と学内研修に長年携わってきたメンバーと日本語教育界の有識者からなるカリキュラム検討委員会において、効率的且つ効果的な教育課程の編成を検討した。

(b)教材の検討・開発 【教材検討委員会】

- 1) 日本語教師養成と学内研修に長年携わってきたメンバーと日本語教育界の有識者からなるカリキュラム検討委員会において、効率的且つ効果的な教育課程の編成を検討した。
- 2) 教材検討委員会において、留学生の日本語指導及び日本語教師養成に十分な経験を有する日本語教師を中心に教材作成を行い、有識者が監修を行うことで、受講者が主体的且つ自律的に学べる e ラーニング教材を開発した。
- 3) 教材検討委員会において、留学生の日本語指導及び日本語教師養成に十分な経験を有する日本語教師と有識者が共に検討して、オンライン参加型研修（実践・演習科目）教材の開発を行った。

(c) 養成・研修の実施

留学生の日本語指導及び日本語教師養成に関して十分な経験を有する日本語教師がオンライン参加型研修を担当した。

(e) 事業全体の成果の評価 【事業評価委員会】

より質の高い研修カリキュラムとすべく、事業全体の評価を行った。

3-1-2. 教育課程の編成

研修効果を考えると、集合して対面で行なうのが望ましいとはいえ、コロナ禍であり、研修受講者が各地で勤務する現職者であることを考えると現実的には難しいため、「現職者が受講しやすい研修」を目指す、研修受講者が時間を有効に主体的に使って受ける研修にするという、この事業の特徴から、e ラーニングとオンライン参加型研修を併用するという方向性を改めて確認した。効果的な研修にするために、e ラーニングとオンライン参加型研修のバランスが肝要であることから、e ラーニング、オンライン参加型研修それぞれに適切な科目を決定した。

カテゴリー	総単位時間数	e ラーニング	オンライン参加型研修	自己研修
(1)日本の留学生施策	10	10		
(2)キャリア教育と学習者心理	14	10	4	
(3)メディアリテラシーと情報	12	10	2	

(4)実践・演習	54	20	20	14
*1 単位時間:45 分以上	90	50	40	

また、オンライン参加型研修の科目内容、「演習」の教壇実習について議論した。20名の教壇実習を効果的に行うために、模擬授業との組み合わせやグループを組んで教壇実習を行うことなどについても検討したが、最終的には各自が実施した授業実践を自己評価のためのチェックリストを通して内省し、各自で検討した改善策を基にグループワークで意見交換を行い、担当講師のフィードバックも通して今後の成長に繋げる形で行うこととなった。

4. 研修カリキュラムの開発

留学生に対する日本語教師【初任】研修教材検討委員会（以下、教材検討委員会）を開催し、原稿執筆者、オンライン参加型研修担当講師と協働して、eラーニングおよびオンライン参加型研修で使用する教材の検討・開発に取り組んだ。

教材検討委員会

- ・第1回 2020年7月15日（中核メンバー）
- ・第2回 2020年7月29日
- ・第3回 2020年8月5日（中核メンバー）
- ・第4回 2021年6月22日（中核メンバー）
- ・第5回 2021年7月6日

4-1. 教材検討委員会 実施報告

より効果的に人材を育成する研修を実施するために、教材検討委員会は原稿執筆者と協働し、下記の通りeラーニング教材の検討・開発に取り組んだ。

- 1) 『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成31年3月4日）表3「留学生に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」を確認した。
- 2) 『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成31年3月4日）表29「教育課程編成の目安：留学生に対する日本語教師初任研修」に示された教育内容に沿って、現場経験の豊富な中核メンバーにおいて研修内容の下案を作成し、その後、専門的な知識を有する委員と共に各科目の到達目標を明確にした。

- 3) 現職者が働きながら効果的・効率的に受講できるよう、eラーニングと対面研修を併用することを改めて確認した。
- 4) 対面研修に関しては、昨今の新型コロナウイルスの状況を鑑み、安心かつ継続的に受講できるよう、当初予定していた集合型のスクーリング形式ではなく、オンライン参加型研修・自己研修で行うことが決定した。
- 5) eラーニングとオンライン参加型研修に最適な科目を決定し、原稿執筆者と対面研修の講師の検討・選定を行い、依頼した。

4-2. 研修カリキュラム開発概要

4-2-1. 研修カリキュラムの目標

- 1) 留学生に対する日本語教育の「知識」、「技能」、そして教育者たる「態度」を有する人材の育成
- 2) 留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化を理解し、キャリア支援という観点から、日本語教育だけでなく留学生が社会とつながる機会がもてるよう工夫のできる日本語教師の育成

4-2-2. 研修カリキュラムのねらい

研修カリキュラムは日本語教師として初任の者を対象として、留学生への日本語教育の前提となる知識、実践的スキル、態度については、90単位時間という限られた時間の研修を通して、全てを獲得するということは現実的とは考えられないことから、知識、実践的スキル、態度について協働的活動も通して理解を深め、将来的な獲得に繋がる基本姿勢の形成を図ることを目論んだ。

具体的には、90単位時間の研修をeラーニング50単位時間とオンライン参加型研修26単位時間、自己研修14単位時間で構成したが、本研修の主な狙いを以下の3つとした。

1) 現職者がより受講しやすい研修

本研修においては、受講者がどこかに集合して対面で受講する形式は採用せず、下記の4タイプの科目構成とした。

- ・動画を視聴するeラーニングのみで完結する科目
- ・オンラインによる同時双方向の対面研修のみで完結する科目
- ・eラーニングと連動してオンラインによる同時双方向の対面研修が開講される科目
- ・eラーニングとオンラインによる同時双方向の対面研修に加えて、自己研修課題が

課される科目

このような科目構成とすることで、現職者が仕事と両立しながら、効率的かつ効果的に、そしてコロナ禍においても安全に受講できる研修とした。

対面研修をオンラインで実施することで、感染症等に対しても安心、継続して受講できる環境を提供した他、国内外を問わず、様々な地域に暮らす方々の受講を可能なものとした。

2) 主体的・協働的に学ぶ研修

日本語教育においては学習者の自律的学習（学習者オートノミー）を支援する意義が語られるが、それを支援する日本語教師自身にも自律性が求められる。

本研修では 50 単位時間に及ぶ e ラーニング科目を設け、専門家による各科目の動画教材による講義を受講し、各科目の理解度チェックテストを受けることで、受講者が主体的かつ自律的に受講を継続できる研修とした。

14 単位時間の自己研修を伴う 26 単位時間のオンライン参加型研修では、個人やグループ単位で課される課題について、他の受講生と協働して取り組むグループワークが組み込まれており、対面で接することがなくとも、他の受講生と協働的に学ぶ機会が多く設けられており、教育現場ではチームティーチングで指導に当たることが多い日本語教師として、連携、協力しようとする態度を育むことも意識した。

3) 成長する日本語教師を育てる研修

当法人では 2006 年から全養協日本語教師検定を実施しているが、講座やセミナー、関連教材を通して、日本語教師が自身の教授活動を分析的に内省し、日本語教師としての実践力を向上させ、成長に繋げるよう、自己チェックリストを提供し、その活用を促している。

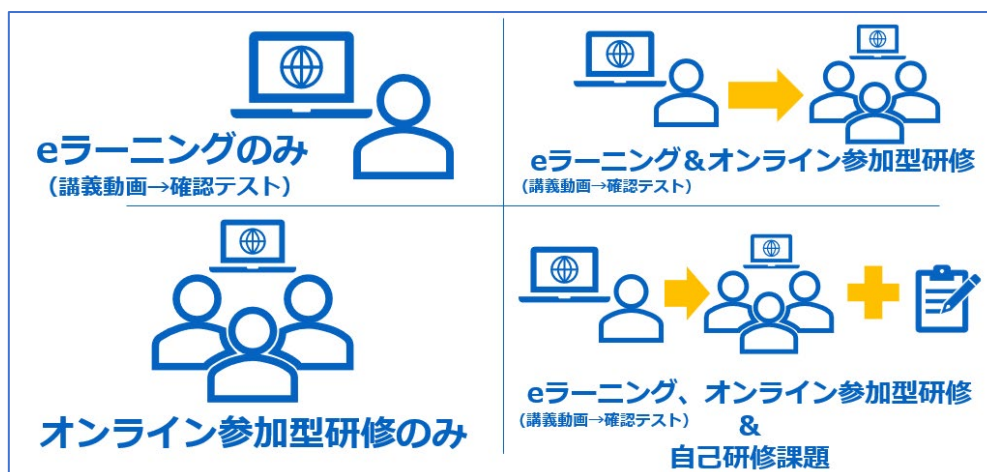
この研修においても、これまでの実践を通じた知見を活用し、受講生が、熟達した教師と初任の教師との視点の違いについて解説を通して理解し、全養協日本語教師検定で出題された授業映像視聴問題の映像を用いて実際に授業分析のポイントを把握し、オンライン参加型研修でも体験的に学んだ上で、自身の授業を分析的に内省するという自己研修を通して、研修後も成長できる内容を盛り込んだ。

4-3. 本事業開発研修カリキュラム

4-3-1. 本事業開発研修カリキュラムの構成

本研修は 90 単位時間（1 単位時間 = 45 分）で、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成 31 年 3 月 4 日）表 29「教育課程編成の目安：留学生に対する日本語教師初任研修」に示された教育内容に沿ったものとなっており、科目は以下の 4 タイプによって構成されている。

- ・ 動画を視聴する e ラーニングのみで完結する科目
- ・ オンライン参加型研修のみで完結する科目
- ・ e ラーニングと連動してオンライン参加型研修が開講される科目
- ・ e ラーニングとオンライン参加型研修に加えて、自己研修課題が課される科目



カテゴリー	教育内容	科目名	eラーニング 単位数	対面研修 単位数	自己研修 単位数	
日本の留学 生施策	日本の留学生受入れ 施策	留学生教育の変遷と在留資格	2			
		法務省告示日本語教育機関の告示基準	1			
	法務省告示日本語教 育機関の歴史と現状	法務省告示日本語教育機関の歴史と現状	1			
		日本語の試験	日本語能力試験（JLPT）	1		
			日本留学試験（EJU）	2		
	ビジネス日本語の試験	1				
	日本と海外の教育制度の違い	日本と海外の教育制度の違い	2			

キャリア教育と学習者心理	進路選択関連情報	キャリア教育	2		
		留学生の進学・就職指導	2		
		留学生の就職指導		2	
	留学生の異文化受容・適応	異文化間トランス	2		
		メンタル・カウンセリング	2	2	
	日本語の学習・教育の情意的側面	青年期学習者の成長・発達【学習・教育の情意的側面】	2		
メディアリテラシーと情報	留学生のための教材・教具のリソース	留学生のための教材・教具のリソース	4	2	
	著作権	著作権	2		
	統計処理(テスト・評価・成績管理)	統計処理	4		
実践・実習	演習	対象レベル別指導法(総論)	2		
		漢字語彙の指導法	3		
		論文の指導法	3	2	2
		議論の指導法	3	2	2
		口頭発表の指導法	3	2	2
		音声の指導法		2	
		大学院進学希望者への指導法	2		
		評価法	2	4	
		ケーススタディ		4	
		自己点検	2	2	6
		振り返り		2	2
		(1 単位時間 = 45 分)	50	26	14

4-3-2. eラーニング科目

eラーニング科目は学習管理システム「eden」を用いて行った。

教育内容	eラーニング研修	単位数	担当講師名 (敬称略)	所属機関/役職名等 (2021年4月時点)
日本の留学生受入れ施策	留学生教育の変遷と在留資格	2	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長

	法務省告示日本語教育機関の告示基準	1	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
法務省告示日本語教育機関の歴史と現状	法務省告示日本語教育機関の歴史と現状	1	嶋田和子	一般社団法人アクラス日本語教育研究所 所長
日本語の試験	日本語能力試験 (JLPT)	1	黒崎誠	公益財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所 所長
	日本留学試験 (EJU)	2	黒崎亜美	公益財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所 講師
			早川聡子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 教材開発委員長
			関川貴子	千駄ヶ谷日本語学校 部長
ビジネス日本語の試験	1	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長	
日本と海外の教育制度の違い	日本と海外の教育制度の違い	2	大塚豊	福山大学学長
進路選択関連情報	キャリア教育	2	西谷まり	一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター教授
	留学生の進学・就職指導	2	勝間田恵美 土田貢之 三澤育代 阿部灯子	千駄ヶ谷日本語学校 専任教員
阪上央成 木島美香 渡邊理恵 高田智之			千駄ヶ谷日本語教育研究所 附属日本語学校 専任教員	
留学生の異文化受容・適応	異文化間トレランス	2	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
	メンタル・カウンセリング	2	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
日本語の学習・教育の情意的側面	青年期学習者の成長・発達【学習・教育の情意的側面】	2	西谷まり	一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター教授

留学生のための教材・教具のリソース	留学生のための教材・教具のリソース	4	尾本康裕	城西国際大学 留学生別科 准教授
著作権	著作権	2	小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
統計処理（テスト・評価・成績管理）	統計処理	4	島田めぐみ	日本大学大学院総合社会情報研究科 教授
演習	対象レベル別指導法（総論）	2	小林ミナ	早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授
	漢字語彙の指導法	3	小林ミナ	早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授
	論文の指導法	3	宇佐美洋	東京大学 大学院総合文化研究科 教授
	議論の指導法	3	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
	口頭発表の指導法	3	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
	評価法	2	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
	自己点検	2	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長

4-3-3. eラーニング科目の特徴

- 1) 効果的、効率的に学べるように1単位時間（45分以上）の講義は、15分程度の動画3本で構成されている。
- 2) 科目毎に理解度チェックテストを設けることにより、受講者自身が自分の理解度を確認できる。
- 3) eラーニング教材は、理論的内容を受講者の任意の時間に自身の学習のペースに合わせて繰り返し学ぶことができる。豊富な人的リソースを活用して作成・開発した豊かな内容の講義となっている。
- 4) eラーニング学習に関する相談に対応できるよう、eラーニング担当講師と事務局スタッフを配置している。

4-3-4. eラーニング科目の進め方

受講者の任意の時間に講義動画を視聴して受講を進めていく。1単位時間毎に3問程度の理解度チェックテストに解答することにより、自身の理解度を確認する。なお、理解度チェックテストの全問正解が研修修了要件の一つとなる。

視聴の順番は問わないが、オンライン参加型研修も設定されている科目については、参加型研修の前までに動画視聴と理解度チェックテストを修了しておくことよう促した。

4-3-5. オンライン参加型研修科目／自己研修課題

オンライン参加型研修科目はすべてオンライン（Zoom）で行った。

教育内容	オンライン参加型研修	単位数	自己研修 単位数	担当講師名 (敬称略)	所属機関／役職名等 (2021年4月時点)
進路選択関連情報	留学生の就職指導	2		小田金欣也	株式会社ベスト・コミュニケーションズ 総務部長
留学生の異文化受容・適応	メンタル・カウンセリング	2		林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
留学生のための教材・教具のリソース	留学生のための教材・教具のリソース	2		尾本康裕	城西国際大学 留学生別科 准教授
演習	論文の指導法 (※)	2	2	宇佐美洋	東京大学 大学院総合文化研究科 教授
	議論の指導法 (※)	2	2	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
	口頭発表の指導法 (※)	2	2	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
	音声の指導法	2		生方哲男	東京中央日本語学院 教務部長
	評価法		4		伊東祐郎

	ケーススタディ	4		吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所 所属日本語学校 校長
	自己点検（※）	2	6	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所 所属日本語学校 校長
	振り返り（※）	2	2	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所 所属日本語学校 校長

4-3-6. オンライン参加型研修科目／自己研修課題の特徴

- 1) 双方向のオンライン参加型研修はオンラインで実施することで居住地に捉われず、ネット環境を整えばどこからでも受講可能となるが、本事業では現職者が受講しやすい週末土曜日の午前中に実施した。
- 2) 丁寧な指導を目指すため受講者を20名程度とし、事務局スタッフが全体的なサポートをした。
- 3) 受講者がeラーニング教材を通して習得した内容をお互いに共有し合い、内在化させる他、指導法や教材作成などのグループワークなどを通して、「内省力」の強化につなげる対面型研修を心掛けた。
- 4) 対面型研修の内容を更に深めるために一部の科目には自己研修を設け、個人及びグループでの充実した学びの機会を設けた。

4-3-7. オンライン参加型研修科目／自己研修課題の進め方

eラーニングと連動して開講される科目に関しては、講義の動画で学んだことを深める目的があることから、受講者に対してはオンライン参加型研修に参加する前に講義の動画を見て理解度チェックテストを受験しておくよう促した。

オンライン参加型研修はグループワーク等を通じて受講者同士で話し合う機会を多く設け、受講者が受け身ではなく、主体的に、自律的に研修に取り組んでいくよう心掛けた。一部の科目に関しては、オンライン参加型研修での学びを深めたり、実践に結びつけたりするために自己研修課題を課し、すべての自己研修課題に取り組み、提出することを修了要件の一つとした。

5. 養成・研修の実施

5-1. 受講者の募集と選考

下記の内容で募集を行った。(表1 募集チラシ参照)

1) 募集内容

「留学生に教える日本語教師【初任】研修～「日本語教師の実践力」を身につける!～」
eラーニングと双方向通信で行われるオンライン参加型研修のすべてをオンラインで受講可能ですので、どこからでも受講いただけます。また、オンライン参加型研修を除き、ご自身のご都合に合わせて受講いただけますので、現職日本語教師の方も無理なく受講いただけます。「日本語教師としてご自身をもっと成長させたい」という想いのある先生方のご参加をお待ちしております。

2) 研修日程

オリエンテーション	2021年7月10日(土) 9:00～10:30
eラーニング受講期間	2021年7月10日(土)～11月26日(金)
オンライン参加型研修	8月28日(土)、9月4日(土)、10月2日(土)、 10月16日(土)、10月30日(土)、11月13日(土)、 11月27日(土)【各日 9:00～12:10】

3) 受講料

19,475円(税込)

4) 定員

20名 ※選考あり

5) 募集受付期間

2021年6月8日～6月28日 ※受講希望者多数の場合は早く締切る場合があります。

6) 受講要件(下記すべてに該当する方)

- ・法務省告示校の日本語教師要件を満たす方
- ・日本語教師歴0年～3年程度までの方【初任】
- ・これから留学生に日本語を教えたいと考えている方、現在教えている方
- ・webカメラ・マイクが使用できるコンピューターと安定したネットワーク環境をご自身でご用意できる方(※スマートフォン非推奨)

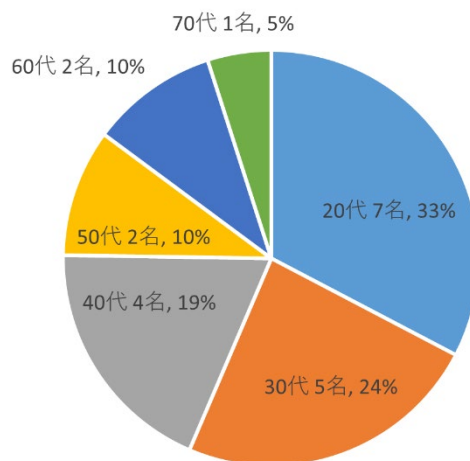
7) 修了要件

- ・期日までのeラーニング全科目受講完了
- ・オンライン参加型研修26単位時間中22単位時間以上の出席
- ・すべての自己研修課題の提出

8) 選考

受講希望者多数のため、当初の予定よりも早く6月25日で募集を締め切った。申込者55名について受講要件のチェック、志望動機等による検討を行い、当初の予定よりも1名多い21名を合格とした。(ただし、研修開始後、1名は事情により辞退)

年代	人数	割合
20代	7名	33%
30代	5名	24%
40代	4名	19%
50代	2名	10%
60代	2名	10%
70代	1名	5%



現在の勤務形態	人数
専任講師	6名
常勤講師	1名
非常勤講師	11名
オンラインボランティア	1名
なし	1名
その他	1名

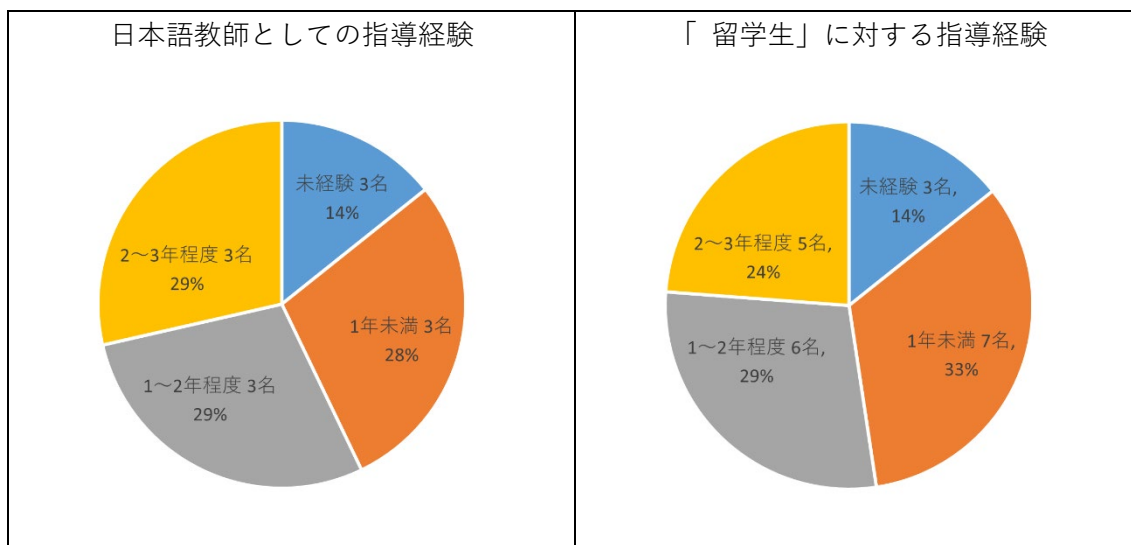




表 1



文化庁 令和3年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業

留学生に教える日本語教師【初任】研修

～「日本語教師の実践力」を身につける！～



研修の目的

- ✓ 留学生に対する日本語教育の「知識」「技能」そして教育者たる「態度」を有する日本語教師になること
- ✓ キャリア支援の観点から、留学生が社会とつながる機会がもてるよう工夫できる日本語教師になること

1. 実施機関
一般社団法人全国日本語教師養成協議会（文化庁より受託して実施）
2. 研修内容（詳細は裏面参照）
 - ・ eラーニング（講義）50単位時間
 - ・ オンライン参加型研修（主に演習）26単位時間
 - ・ 自己研修 14単位時間
3. 研修日程 ※オリエンテーション（オンライン）2021年7月10日（土）9:00～10:30
 - ・ eラーニング受講期間：2021年7月10日（土）～11月26日（金）
 - ・ オンライン参加型研修：各日9:00～10:30、10:40～12:10

8月28日（土）	9月4日（土）	10月2日（土）	10月16日（土）
10月30日（土）	11月13日（土）	11月27日（土）	

※自己研修はオンライン参加型研修の課題を個人またはグループで準備する時間です。実施時間については各自任意の時間に行っていただけます。
4. 研修実施方法
 - ・ eラーニング ⇒ 専用の研修サイトで動画を視聴、各科目の確認テスト実施
 - ・ オンライン参加型研修 ⇒ Zoomで実施

研修はすべてオンラインで完結
どこからでも安全に受講可能

5. 定員 20名
6. 受講要件（下記すべてに該当する方）
 - ・ 法務省告示校の日本語教師要件を満たす方
 - ・ 日本語教師歴0年～3年程度までの方【初任】
 - ・ これから留学生に日本語を教えたいと考えている方、現在教えている方
7. 受講料 19,475円（税込）
8. 必要機器等 webカメラ・マイクが使用できるコンピューター、安定したネットワーク環境
※スマートフォン非推奨

受講前の準備【Zoomのインストールとアカウント登録】
オリエンテーションとオンライン参加型研修はZoomを使用してお参加いただけます。既に利用している方は、改めてインストールおよび登録の必要はありません。
①下記URLから「ミーティング用Zoomクライアント」をダウンロードし、パソコン等にインストールしてください。
https://zoom.us/download#client_4meeting
②Zoomのアカウントをご作成ください。（Googleのアドレスをお持ちの方はGmailアドレスでサインイン可能ですので別途作成の必要はありません。



文化庁 令和3年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業
留学生に教える日本語教師【初任】研修～「日本語教師の実践力」を身につける！～



文化庁 研修内容 *科目名等変更の可能性あり

【eラーニング】科目名	講師	所属機関/役職名等
留学生教育の変遷と在留資格1	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
留学生教育の変遷と在留資格2	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
法務省告示日本語教育機関の歴史と現状	嶋田和子	一般社団法人アクラス日本語教育研究所 所長
法務省告示日本語教育機関の告示基準	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
日本語の試験—日本語能力試験 (JLPT)	黒崎誠	公益財団法人ラポ国際交流センター ラポ日本語教育研修所 所長
日本語の試験—ビジネス日本語の試験	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
日本と海外の教育制度の違い	大塚豊	福山大学 学長
日本語の試験—日本留学試験 (EJU)	黒崎亜美	公益財団法人ラポ国際交流センター ラポ日本語教育研修所
進路選択関連情報—キャリア教育	西谷まり	一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター 教授
進路選択関連情報—留学生の進学	勝間田恵美ほか3名	千駄ヶ谷日本語学校専任教員
進路選択関連情報—就活指導	阪上央成ほか3名	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校専任教員
異文化間トランス	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
メンタル・カウンセリング	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
青年期学習者の成長と発達	西谷まり	一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター 教授
漢字語彙の指導法	小林ミナ	早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授
議論の指導法	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
口頭発表の指導法	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
自己点検の指導法	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
対象レベル別指導法 (総論)	小林ミナ	早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授
評価法	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
論文の指導法	宇佐美洋	東京大学 大学院総合文化研究科 教授
留学生のための教材・教具のリソース1-4	尾本康裕	城西国際大学 留学生別科 准教授
留学生のための教材・教具のリソース5-6	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
著作権	小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
統計処理 (テスト・評価・成績管理)	島田めぐみ	日本大学大学院総合社会情報研究科 教授

【オンライン参加型研修】科目名	講師	所属機関/役職名等
留学生の進学・就職指導	小田金欣也	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 就職支援室長
メンタル・カウンセリング	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
演習—議論の指導法	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
演習—口頭発表の指導法	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
演習—自己点検の指導法	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
演習—評価法	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
演習—論文の指導法	宇佐美洋	東京大学 大学院総合文化研究科 教授
演習—音声の指導法	生方哲男	東京中央日本語学院 教務部部長 主任
演習—対象レベル別指導法ケーススタディ	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
演習—振り返り	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
留学生のための教材・教具のリソース	尾本康裕	城西国際大学 留学生別科 准教授

* 期日までのeラーニング全科目受講完了、オンライン参加型研修26単位時間中22単位時間以上の出席、自己研修課題提出を以て、修了証を発行。

受講申込方法：

- ① ホームページの受講申込フォームよりお申込ください。
- ② 5営業日以内に受講の可否を個別に通知いたします。(受講料の入金方法等についてもご連絡いたします。)
- ③ 指定期日までに受講料をご入金ください。

受講申込は6月28日(月)まで受付予定です。
但し、受講希望者多数などの場合は申込受付を予定より早く締め切る場合もございます。

お問合せ先：一般社団法人全国日本語教師養成協議会(事務局)
E-mail: contact@zenyoukyou.jp TEL: 03-6812-1972 (平日9:00~17:00)



5-2. 研修の事前準備

5-2-1. 学習管理システム「eden」の環境整備

e ラーニング科目原稿執筆者より受領した原稿をもとに教材の作成を進め、完成した動画・理解度チェックテストを学習管理システム「eden」へアップロードした。アップロードしたものは、順次動作確認を行った。

留学生教育の変遷と在留資格（2単位時間）

コンテンツ名	種類	進捗率/得点	最終学習日
  留学生教育の変遷と在留資格1-1	レッスン	100	2021/07/10
  留学生教育の変遷と在留資格1-2	レッスン	100	2021/07/10
  留学生教育の変遷と在留資格1-3	レッスン	100	2021/07/19
  留学生教育の変遷と在留資格1（留学生教育の変遷）（4問） (合格ライン:100点)	テスト	合格 100 履歴を見る	2021/06/25
  留学生教育の変遷と在留資格2-1	レッスン	100	2021/07/10
  留学生教育の変遷と在留資格2-2	レッスン	100	2021/07/10
  留学生教育の変遷と在留資格2-3	レッスン	100	2021/07/10
 留学生教育の変遷と在留資格2（在留資格）（2問） (合格ライン:100点)	テスト		
  ☆講師略歴（新山忠和）	レッスン	100	2021/07/10

法務省告示日本語教育機関の告示基準（1単位時間）

コンテンツ名	種類	進捗率/得点	最終学習日
  法務省告示日本語教育機関の告示基準1-1	レッスン	100	2021/08/24
  法務省告示日本語教育機関の告示基準1-2	レッスン	100	2021/08/24
  法務省告示日本語教育機関の告示基準1-3	レッスン	100	2021/09/08
  法務省告示日本語教育機関の告示基準（3問） (合格ライン:100点)	テスト	合格 100 履歴を見る	2021/10/12

5-2-2. オンライン参加型研修担当講師との事前打合せ

オンライン参加型研修実施に際しては、毎回、事務局と担当講師とで事前打合せを行い、研修の目的や全体の構成、科目内容等を再度確認し、受講者に関する情報を共有した。また、事前に内容を確認すべく、授業内容に関する表の作成を依頼した。

留学生に教える日本語教師【初任】研修 全養協 オンライン参加型研修 授業内容につきまして

オンライン参加型研修をご担当くださり、ありがとうございます。授業の内容につきまして、事前にお知らせいただきたく存じます。

下記の表を埋めて、ご担当日の1週間前までに事務局へお送りください。なお、研修生に事前課題を課す場合は、2週間前までにお知らせください。

科目	
日時・単位時間	
eラーニング研修	〇〇単位時間 ※受講生視聴済み。関連した内容をお願いします。
自己研修	〇〇単位時間 ※事前または事後の課題を課してください。
事前課題	無し・有り [課題の内容] [事務局への連絡事項]
事後課題	無し・有り [課題の内容] [事務局への連絡事項]
授業の目的または目標	
授業の流れ ※簡単で結構です	

以上、どうぞよろしくお願いいたします。

5-3. 研修の実施

研修は下記の日程で実施した。

研修期間：2021年7月10日（土）～11月27日（土）

<研修日程>

- ・開講式／オリエンテーション

7月10日（土）9:00～10:30 ※単位対象外

- ・eラーニング受講期間

7月10日（土）～11月26日（金）午前9:00

- ・オンライン参加型研修

8月28日（土）、9月4日（土）、10月2日（土）、10月16日（土）

10月30日（土）、11月13日（土） 11月27日（土）

※各日9:00～10:30、10:40～12:10

- ・自己研修

オンライン参加型研修の課題を各自任意の時間に行う。

5-3-1. 開講式／オリエンテーション

研修開始前に、オンライン（Zoom）で開講式とオリエンテーションを行い、受講生21名全員が参加した。本研修の目的や目標、受講方法、注意事項等を説明し、その後のオンライン参加型研修でグループワークが行われることから、全体での自己紹介とブレイクアウトセッションでのグループトーク（テーマ：「日本語教師になりたいと思ったきっかけ」）の時間を設けた。

受講者からは、自分自身と同じ【初任】の人たちと繋がる機会がなかなかないことから、今回の研修で課題を共有して、日本語教師として成長する機会としたいという、前向きな声が多く聞かれた。

以下は、研修受講の注意事項、eラーニング研修マニュアル、オンライン参加型研修マニュアル（一部抜粋）である。

研修受講の注意事項

一般社団法人全国日本語教師養成協議会主催
文化庁 令和3年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業
留学生に教える日本語教師【初任】研修 ～「日本語教師の実践力」を身につける！～

研修受講に際して(留意事項)

【eラーニング研修】LMS「eden」使用 *別途、使用マニュアル作成予定

- LMS 上での eラーニング研修科目の受講は、2021年11月26日(金)午前9:00迄となります。その時点までの受講状況に基づき、11月27日(土)に修了証の発行を行います。
- LMS のアカウントは、1名につき1つのアカウントをご使用ください。万が一、アカウントの共有が判明した場合は、それ以降の受講をお断りし、修了証の発行も行いません。その場合、受講料の返金は致しかねます。

【オンライン参加型研修】Zoom ミーティング使用

- Zoom を初めて利用される方は、下記 URL から「ミーティング用 Zoom クライアント」を事前にダウンロードをしてください。(Web ブラウザでの参加も可能ですが、アプリの利用を推奨しております。)
<https://zoom.us/download>
- 受講当日は、安定したインターネット環境下で、マイクおよびカメラを備えた PC(スマートフォンやタブレットは非推奨)をご準備ください。お一人で集中ができる静かな環境を確保して下さい。
- オンライン接続により、電池消費が早くなります。充電しながらの受講を推奨いたします。
- Zoom の表示名は、ニックネームではなく、お名前(本名、漢字フルネーム)をご入力ください。
- 研修中は、カメラはオン、講師が指示したとき以外は、マイクはオフにしてください。
- 複数デバイスでの参加(PC とタブレット等)はご遠慮ください。但し、映像が見えない・音声が届かないなど正常に作動しない事象が生じた場合は、他のパソコン、あるいはタブレットなどの他のデバイスをお試しください。
- オンライン参加型研修ではグループワークの実施が予定されています。お名前と連絡先メールアドレスを他の受講生の方々、および担当講師と共有する場合がございますので、ご了承ください。
- 研修当日の連絡先:03-6812-1972(全養協事務局)
※研修当日の電話連絡は、8:30～9:00とさせていただきます。
- 欠席の連絡は不要です。欠席の場合、振替等の対応はいたしません。また、当日の研修内容に関する質問にはお受けできません。

【その他】

- 研修受講のための機器や回線の準備・設定等は、事前に受講者様ご自身の責任で行ってください。尚、当該準備・設定等及び通信等にかかる費用は全て受講者様のご負担となります。
- 携帯電話会社の回線でも受講は可能ですが、通信量が大きいと、ご自宅で契約された有線 LAN ケーブルや安定したインターネット回線(Wi-Fi など)での受講を推奨します。
- オンラインによる研修は、インターネット環境があれば場所を問わず受講できる便利さがある反面、通信状況やその他の理由により、音声が届かない、映像が固まる、つながらない等のトラブルが起こる可能性があります。受講者様の使用されているデバイスやブラウザ、インターネット環境およびアクセス状況等によって正常に視聴・受講できない場合、当法人では責任を負いかねます。
- 受講者様のご都合により視聴・受講できなかった場合、受講料の返金は致しません。但し、研修の担当講師及び主催者側の不具合により講義の受講が中断し、回線回復できない場合には、録画を配信するなどの代償を行います。

- 本研修の e-ラーニング研修およびオンライン参加型研修の録画・録音・撮影、スクリーンショットやダウンロードおよび研修資料等の無断転用や受講用 URL の無断転載は固くお断りいたします。万が一、これらの行為が発覚した場合、著作権および肖像権侵害で対処させていただくことがございます。
- 本研修にて知り得た個人情報を外部公開されないようお願いいたします。
- オンライン参加型研修は、文化庁等への研修実施報告、研修事業評価を行う目的で、主催者はビデオの記録を行います。また、記録したものを広報等のためにホームページ等で一般公開する場合は、対象となる受講者様に許可を得る、または受講者様個人が特定できないよう配慮いたします。
- 開講後のキャンセルは認めません。その場合、返金も致しません。
- 修了証の再発行は致しません。
- 本研修は文化庁から委託を受けて実施されます。今後の日本語教育と日本語教師の向上のために、アンケート等をお願いする場合がございます。ご協力をお願いいたします。

【修了要件】

- e-ラーニング研修全科目受講(2021年11月26日(金)午前9:00まで)
- e-ラーニング研修全科目確認テスト全問題全正解(上記期日迄、何度でも受けられます)
- オンライン参加型研修 26 単位中 22 単位以上参加(欠席した科目の振替等の対応はありません)
- 自己研修課題(14 単位時間* 修了レポート作成 2 単位時間含む)
 ※課題: オンライン参加型研修の事前課題または事後課題となります。別途、お知らせします。
 ※修了レポート(提出期間: 11/16(火)~11/23(火・祝日))
- セルフチェックシート×2 回(研修開始時・研修修了時)
- 受講者アンケート(研修修了時)

【免責事項】

- 本研修の e-ラーニング研修のツールとしてエデン株式会社(<https://eden.ac/e-learning/>)のシステムを利用しています。ご利用に関しましては、エデン株式会社の利用規約に準じます。また、本システムを利用したことにより、または利用できなかったことにより、お客様または第三者が被った損害について、当社は一切の責任を負いません。
- 本研修のオンライン参加型研修のツールとして Zoom 社(<https://zoom.us/>)のサービスを利用しています。ご利用に関しましては、Zoom 社の利用規約に準じます。また、本サービスや本サービス用のアプリケーション等を利用したことにより、または利用できなかったことにより、お客様または第三者が被った損害について、当社は一切の責任を負いません。

以上

2021年7月10日
 一般社団法人全国日本語教師養成協議会

eラーニング研修マニュアル

「留学生に教える日本語教師【初任】研修」 eラーニング研修受講方法 LMS操作方法含む

一般社団法人全国日本語教師養成協議会 作成

目次

- eラーニング受講期間の確認
【参考】オンライン参加型研修等スケジュール

LMSの操作方法

- ① サイトにログイン
- ② 受講者画面TOP
- ③ 科目構成
- ④ 講義（動画）視聴
- ⑤ 確認テスト受験
- ⑥ 課題提出（一部科目のみ）

【研修に関するお問合せ】
一般社団法人全国日本語教師養成協議会（事務局）
Contact: info@jnlc.jp
* 24時間メールは受付できませんが、遠征対応は業務時間内（午前9:00~17:00）に返信させていただきます。

② 受講者画面TOP

パスワード変更完了後、受講者画面TOPに移ります。

- 受講する度に「お知らせ【一覧】」を確認してください。事務局からのメッセージもこちらをご確認ください。

① サイトにログイン

- サイト (<https://eden.ac/login>) にアクセスします。
- ログインをします。

ユーザーID（メールアドレス）
= 申込時に使用したメールアドレス

初期パスワード

- （初回のみ）ログインに成功するとパスワード変更画面が出ます。パスワードの変更をしてください。

③ 科目構成

1単位時間 = 45分以上

科目名	単位数	備考
日本語基礎1	1	講義(動画)×3本
日本語基礎2	1	講義(動画)×3本
日本語基礎3	1	講義(動画)×3本
日本語基礎4	1	講義(動画)×3本
日本語基礎5	1	講義(動画)×3本
日本語基礎6	1	講義(動画)×3本
日本語基礎7	1	講義(動画)×3本
日本語基礎8	1	講義(動画)×3本
日本語基礎9	1	講義(動画)×3本
日本語基礎10	1	講義(動画)×3本
日本語基礎11	1	講義(動画)×3本
日本語基礎12	1	講義(動画)×3本
日本語基礎13	1	講義(動画)×3本
日本語基礎14	1	講義(動画)×3本
日本語基礎15	1	講義(動画)×3本
日本語基礎16	1	講義(動画)×3本
日本語基礎17	1	講義(動画)×3本
日本語基礎18	1	講義(動画)×3本
日本語基礎19	1	講義(動画)×3本
日本語基礎20	1	講義(動画)×3本

- 1単位時間の科目構成
 - 講義（動画）×3本
 - 確認テスト×3回
 - 講義時限（科目により無い場合もあり）
- 主な複数単位時間の科目構成
 - 講義（動画）×3本×単位数
 - 確認テスト×3回×単位数
 - 講義時限（科目により無い場合もあり）

※一部科目は、講義（動画）が1単位あたり4本で構成されています。
※一部科目は、確認テストの回数値が異なります。

③ 科目構成（その他）

- 配布資料がある場合は、★配布資料と記載があります。
- eラーニング研修とオンライン参加型研修の両方が開講される科目については、「【XX/XX参加あり】」と記載があります。
オンライン参加型研修に関するお知らせから、事前配布資料や当日のZoomの案内を確認してください。
- オンライン参加型研修に付随する自己研修課題がある科目には、「自己研修課題に関するお知らせ」と記載があります。
課題内容等が発表され次第、こちらから詳細をご確認ください。

④ 講義（動画）視聴

- 各コンテンツをクリックすると、レッスン動画/テスト画面が表示されます。
- 視聴した動画には「完了」が表示されます。
※システムの一部上、レッスン画面を閉じた状態で「完了」と表示されます。但し、コンテンツ視聴時間履歴は正確に確認されています。
- 視聴後、ページ下部の「戻る」をクリックすると、受講者画面TOPに戻ります。
- 完了したコンテンツ名の横には「✓」が表示されます。

※一部科目は合成音声を使用しています。
※講義は2020年9月時点の情報に基づいて作成されています。
※講義（動画）は「完了」後も繰り返し視聴可能です。

●eラーニング研修の動画のスライド、確認テストの問題（解説含む）のPDFや印刷物での配布はありません。

⑤ 確認テスト受験

- コンテンツ名の確認テストの箇所をクリックします。
- 確認テストの合格ラインは全問正解です。全問正解するまで繰り返し受験をします。

全問の答えを選択したら、ページ下部の「採点」をクリックします。

⑥ 確認テスト受験（一時中断する場合）

- 確認テストを途中で一時中断する場合は、ページ下部の「一時中断」で回答を保存します。

受講者画面TOPの「演習を再開」をクリックするとテストを再開できます。

⑦ 確認テスト結果

- 確認テスト画面の「採点」をクリックすると、結果画面が表示されます。
- 不合格の場合は、再度確認テストを受験します。
- 結果は受講者画面TOPでも確認できます。

採点結果画面

受講者画面TOP

名前	進捗率/総点
レッスン	100 / 100
レッスン	100 / 100
レッスン	100 / 100
テスト	100 / 100
レッスン	100 / 100
レッスン	0 / 0
レッスン	0 / 0
テスト	0 / 0

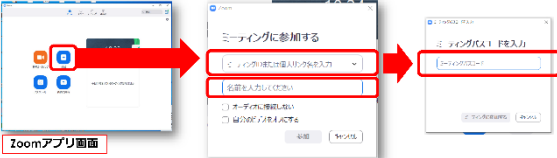
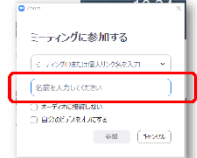
⑧ 確認テストの結果（解説）

- 受講者画面TOPの「解説を見る」をクリックすると、正解した問題の解説を確認できます。

受講者画面TOP

名前	進捗率/総点
レッスン	100 / 100
レッスン	100 / 100
レッスン	100 / 100
テスト	100 / 100
レッスン	100 / 100
レッスン	0 / 0
レッスン	0 / 0
テスト	0 / 0

オンライン参加型研修マニュアル

<p>毎日開始5分前に マイクテストを兼ねた 出席確認をします！</p> <p>「留学生に教える日本語教師【初任】研修」</p> <h3>オンライン参加型研修</h3> <p>Zoomミーティング使用について</p> <p>一般社団法人全国日本語教師養成協議会 作成</p>	<p>研修受講に際して（留意事項） 【オンライン参加型研修】Zoomミーティング使用</p> <ul style="list-style-type: none"> Zoomを初めて利用される方は、下記URLから「ミーティング用Zoomクライアント」を事前にダウンロードをしてください。 (Webブラウザでの参加も可能ですが、アプリの利用を推奨) https://zoom.us/download 受講当日は、安定したインターネット環境下で、マイクおよびカメラを備えたPC（スマートフォンやタブレットは非推奨）をご準備ください。お一人で集中できる静かな環境を確保して下さい。 研修中は、カメラはオン、講師が指示したとき以外は、マイクはオフにしてください。 オンライン接続により、電池消費が早くなります。充電しながらの受講を推奨します。
<p>研修受講に際して（留意事項） 【オンライン参加型研修】Zoomミーティング使用</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修前日までに、edenでお知らせするミーティングIDとパスワードを入力して入室してください。  <p>Zoomアプリ画面</p>	<p>研修受講に際して（留意事項） 【オンライン参加型研修】Zoomミーティング使用</p> <ul style="list-style-type: none"> Zoomの表示名は、ニックネームではなく、お名前（本名、漢字フルネーム）をご入力ください。 
<p>研修受講に際して（留意事項） 【オンライン参加型研修】Zoomミーティング使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ミーティングIDとパスワードは、前半コマと後半コマで異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ■全養協_日本語教師【初任】研修（前半コマ専用9:00～10:30） ミーティングID:925 8583 1203 パスワード：177536 ■全養協_日本語教師【初任】研修（後半コマ専用10:40～12:10） ミーティングID:924 9116 8130 パスワード236962 	<p>研修受講に際して（留意事項） 【オンライン参加型研修】Zoomミーティング使用</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン参加型研修ではグループワークの実施が予定されています。お名前と連絡先メールアドレスを他の受講生の方々、および担当講師と共有する場合もあります。ご了承ください。 複数デバイスでの参加(PCとタブレット等)はご遠慮ください。但し、映像が見えない・音声が届かないなど正常に作動しない事象が生じた場合は、他のパソコン、あるいはタブレットなどの他のデバイスをお試しください。 研修当日の連絡先：03-6812-1972（全養協事務局） 対応時間は、8:30～9:00とさせていただきます。 欠席の連絡は不要です。 欠席の場合、振替等の対応はいたしません。また、当日の研修内容に関する質問にはお受けできません。

5-3-2. eラーニング研修

受講期間：7月10日（土）～11月26日（金）午前9:00

受講者は任意の時間に講義動画を視聴して受講を進めた。視聴の順番は特に指定しなかったが、オンライン参加型研修と連動している科目については、講義の動画で学んだことを深める内容となっているため、参加型研修の前までに動画視聴と理解度チェックテストを終えておくようにオリエンテーションで受講生に伝えた。マニュアルをeden内でいつでも確認できるようにしていたため、問題なく受講を進めることができたようだ。

受講者自身で進捗を管理して進めることにしていたが、事務局が定期的に受講状況を確認し、視聴が滞っている場合は個別にメールで連絡を取るようにした。

科目の詳細は「4-3-2. eラーニング科目」を参照。

【各講義の内容】

科目名	留学生教育の変遷と在留資格
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の留学生受入の歴史的変遷について理解する。 ・主な留学生受入政策とその展開について理解する。 ・在留資格とは何かについて理解する。 ・留学生が関わる在留資格について理解する。 ・法務省の役割と入管法について理解する。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.日本の社会の動き 2.留学生政策と在留資格

科目名	法務省告示日本語教育機関の告示基準
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・告示基準策定以前の状況と策定の経緯が理解できる。 ・告示基準の主な内容が理解できる。 ・告示基準改定の主なポイントが理解できる。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.告示基準策定以前の状況と策定の経緯 2.告示基準の主な内容 3.告示基準改定の主なポイント

科目名	法務省告示日本語教育機関の歴史と現状
担当講師	嶋田和子 一般社団法人アクラス日本語教育研究所 所長
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学校を社会的な枠組みの中で捉えることができる。 ・流れの中で日本語学校の社会的役割と存在意義、さらには日本語教師の役割・意義について考えることができる。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.日本語学校の歴史1990年代まで ～「留学生10万人計画」を軸とした混乱の中で～

	<p>2.日本語学校の歴史 2000年～2010年 ～激動の中で成長をめざして～</p> <p>3.日本語学校の歴史 2011年以降 ～多様性と広がりの中で～</p>
--	---

科目名	日本語能力試験（JLPT）
担当講師	黒崎誠 公益財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所 所長
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力試験の概要を知る ・試験問題で問われる日本語力の内容を知る
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.日本語能力試験（JLPT）とは 2.日本語能力試験（JLPT）の概要 3.問題の構成 4.問題の出題基準 5.日本語能力試験問題例

科目名	日本留学試験（EJU）
担当講師	黒崎亜美 公益財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所 講師 早川聡子 千駄ヶ谷日本語教育研究所 教材開発委員長 関川貴子 千駄ヶ谷日本語学校 部長
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本留学試験（EJU）について理解できる ・アカデミック・ジャパニーズについて理解できる
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.日本留学試験（EJU）とは 2.日本留学試験（EJU）と大学・専門学校受験の関係 3.日本留学試験（EJU）測定能力

科目名	ビジネス日本語の試験
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就労現場で求められる日本語能力の要件が理解できる。 ・主なビジネス日本語の試験について理解できる。 ・ビジネス日本語の試験の構成と対策が理解できる。

授業内容	1.就労現場で求められる日本語能力の要件 2.主なビジネス日本語の試験 3.ビジネス日本語の試験の構成と試験対策
-------------	--

科目名	日本と海外の教育制度の違い
担当講師	大塚豊 福山大学学長
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・内外の教育制度を比較する前提として、日本の教育制度、 ・特に高等教育制度についての理解を深めることができる。 ・日本の高等教育機関に留学する上で留学生が知っておくべき ・制度的特色について理解を深めることができる。
授業内容	1.学校制度の変遷 2.高等教育制度の改革 3.日本の大学入学資格

科目名	キャリア教育
担当講師	西谷まり 一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター教授
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における外国人労働に関する議論を把握する。 ・日本で働く外国人の種類と状況が理解できる。
授業内容	1.外国人労働に関する議論 2.外国人技能実習生 3.日本で働くさまざまな外国人

科目名	留学生の進学・就職指導
担当講師	千駄ヶ谷日本語学校 専任教員 勝間田恵美、土田貢之、三澤育代、阿部灯子 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 専任教員 阪上央成、木島美香、渡邊理恵、高田智之
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生の進学の実際を知る。 ・ 大学学部・専門学校進学指導の注意点を理解する。 ・ 留学生の大学院進学および就職指導の実際と注意点を理解することができる。 ・ 進学指導大学院の実際と注意点
授業内容	1.留学生の進学について

	2.学部進学指導の実際と注意点 3.専門学校進学指導の実際と注意点 1.進学指導大学院の実際と注意点 2.留学生の就職全体にかかわること 3.就職指導の実際、注意点
--	--

科目名	異文化間トレランス
担当講師	林千賀 城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化間トレランスと異文化間能力とは何か説明できる ・ 多文化共生・文化的アイデンティティ・異文化適応・異文化変容についてそれぞれ説明できる
授業内容	1.異文化間トレランスと異文化間能力 2.多文化共生・文化的アイデンティティとは 3.異文化適応・異文化変容とは

科目名	メンタル・カウンセリング
担当講師	林千賀 城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンタルヘルスとは何か事例から理解できる。 ・ 異文化適応と症状、メンタルヘルスの予防について理解できる ・ 留学生にみられる精神障害について理解できる。 ・ カウンセリングとは何か理解し、日本語教師や支援者の役割について理解できる。
授業内容	1-1：メンタルヘルスとケーススタディ（事例） 1-2：異文化適応とメンタルヘルス 1-3：留学生のメンタルな症状や相談の具体例と予防 2-1：留学生にみられる精神障害 2-2：カウンセリングとは何か 2-3：カウンセリングをどのようにして用いるか

科目名	青年期学習者の成長・発達【学習・教育の情意的側面】
担当講師	西谷まり 一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター教授
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語不安とリスクテイキングについて理解する。

	・失敗から学ぶ日本語指導方法について学ぶ。
授業内容	1.言語不安の解釈に着目した日本語指導 2.失敗から学ぶ口頭発表の指導

科目名	留学生のための教材・教具のリソース
担当講師	尾本康裕 城西国際大学 留学生別科 准教授
授業の目的・目標	・留学生のための教材・教具のリソースについて学ぶ ・実践的、実用的な知識を習得する
授業内容	1-1：教材・教具とは何か 1-2：教材について 1-3：基本的ツールおよび役立つサイト 2-1：テクノロジーと日本語教育① 2-2：テクノロジーと日本語教育② 2-3：ICT と教室活動 3-1：日本語教育に役立つサイト① (役立つリンク集、読解で役立つサイト) 3-2：日本語教育に役立つサイト② (オンライン練習作成ソフト&サイト、学習管理サイト) 3-3：オンライン教育の展望 (情報リテラシーの必要性、ウェブに対する意識等) 4-1：オンライン授業について 4-2：対面授業とオンライン授業 4-3：オンライン授業実践のヒント

科目名	著作権
担当講師	小山紀子 千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
授業の目的・目標	・日本語教師に必要な著作権の知識を身に付ける。 ・著作物の取扱いについて理解し、業務に生かせるようにする。
授業内容	1. なぜ今、著作権が大切に？ 2. 基礎知識チェック 3. 著作権とは 4. 著作権制度の目的 5. 著作物とは 6. 著作者とは

	<p>7. 著作者の権利</p> <p>8. 著作権（財産権）の保護期間</p> <p>9. 他人の著作物を利用する方法</p> <p>10. 許諾が不要な場合①</p> <p>11. 許諾が不要な場合②</p> <p>12. 許諾が不要な場合③</p> <p>13. 外国の著作物</p> <p>14. 著作隣接権</p> <p>15. 教育機関とは</p> <p>16. 教育機関での複製</p> <p>17. キャラクター使用</p> <p>18. 著作権フリー素材</p> <p>19. 著作権侵害の罰則</p>
--	--

科目名	統計処理
担当講師	島田めぐみ 日本大学大学院総合社会情報研究科 教授
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何のために統計分析を行うのかを理解する。 ・ どのようにデータの特徴を表すか理解する。 ・ 違う時期のテストをどのように比較できるか理解する。 ・ テストの種類により分析方法が異なることを理解する。 ・ 客観テストの基本統計量を計算できる。 ・ 客観テストの項目分析を行い、解釈できる。 ・ 主観テストの信頼性の概念を理解する。 ・ 2変量の間係を表す相関係数を理解する。 ・ 評定者間信頼性、評定者内信頼性を計算できる。 ・ 自己評価結果の分析方法を理解する。 ・ 自己評価結果の妥当性と信頼性を理解する。 ・ 自己評価結果を利用できるようになる。
授業内容	<p>1-1.統計的推測と統計的記述</p> <p>1-2.データの特徴を表す</p> <p>1-3.異なるテスト結果を比較する（標準化）</p> <p>2-1.テストの分類</p> <p>2-2.客観テストの基本統計量</p> <p>2-3.客観テストの項目分析の方法と解釈</p> <p>3-1.主観テストの信頼性</p>

	3-2.変量の関係を表す相関係数 3-3.評定者間信頼性, 評定者内信頼性 4-1.自己評価結果の項目分析(平均, 合計点との相関) 4-2.自己評価結果の妥当性, 信頼性 4-3.自己評価結果の教育現場での利用
--	--

科目名	対象レベル別指導法(総論)
担当講師	小林ミナ 早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学習者としての「留学生」の多様性を理解する。 ・「アカデミック・ジャパニーズ」の概要を知る。 ・「アカデミック・ジャパニーズ」について深く理解する。 ・「アカデミック・ジャパニーズ」の実践例を知る。
授業内容	1-1.日本語学習者としての「留学生」 1-2.「留学生」の多様性 1-3.多様性への対応とアカデミック・ジャパニーズ 2-1.「アカデミック・ジャパニーズ」とコース・デザイン 2-2.「問題発見解決能力」の養成 3. 「アカデミック・ジャパニーズ」と日本語レベル

科目名	漢字語彙の指導法
担当講師	小林ミナ 早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「語彙」と「漢字」について理解を深める。 ・「指導」という観点から「語彙」と「漢字」の関係を考える。 ・「文法教育」と連動した「語彙教育」の具体的な指導法を知る。 ・アカデミック・ジャパニーズとしての「語彙教育」のデザインを考える。 ・「漢字教育」を、「表記」「語彙」の観点から整理する。 ・コミュニケーション全体のなかで「漢字教育」をデザインする。
授業内容	1-1.「語彙」とは何か 1-2.「語彙/漢字」と「4技能」 1-3.「語彙の指導」の留意点 2-1.自己紹介で「という」を使う 2-2.「という」で概念を構造化する 2-3.電子メールに適切な「件名」をつける

	3-1.表記としての「漢字教育」 3-2.語彙としての「漢字教育」 3-3.音声コミュニケーションにおける「漢字教育」
--	---

科目名	論文の指導法
担当講師	宇佐美洋 東京大学 大学院総合文化研究科 教授
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「論文」とはどのような種類の文章であるかを理解する ・ 「いい問い」を立てることの重要性を理解する ・ 「初級」段階でできる教育活動の例を、自ら考えられるようになる ・ 文章の「構成」とは何かを理解する ・ 文章構成の「型」は大切だが、不適切に使われがちであることを理解する ・ 論理的に問題がなければ、それで説得力が出るわけではないことを学ぶ ・ 「論理的」とはということかについて改めて理解する ・ 論証の適切さについて考えるツールとして、「ツールミン・モデル」を理解する ・ 「ツールミン・モデル」の具体的な使い方を考える
授業内容	1-1.論文とは？ 1-2.「いい問い」を立てよう 1-3.初級段階で「いい問い」を立てるには 2-1.論文の「構成」とは？ 2-2.「型」は適切に使おう 2-3.「論証」と「説得」の違い 3-1.「論理的」ってどういうこと？ 3-2.「論証」に必要なものとは？ ツールミン・モデルについて知ろう 3-3.「ツールミン・モデル」を使ってみよう

科目名	議論の指導法
担当講師	深澤のぞみ 金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
授業の目的・目標	<p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした議論ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アカデミック・ジャパニーズとは何かを説明できる ・ 議論とアカデミック・ジャパニーズの関係を説明できる ・ 議論の性質を説明できる <p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした議論ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議論の構成要素と指導法の概要を説明できる ・ 議論の評価や学習者の参加について説明できる ・ 様々な種類の議論の指導法を説明できる <p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした議論ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初級レベルにおける議論の指導法を説明できる ・ 中級レベルにおける議論の指導法を説明できる ・ 上級レベルにおける議論の指導法を説明できる
授業内容	1-1. アカデミック・ジャパニーズとは何か 1-2. 議論の性質 1-3. 議論の教育 2-1. 議論の構成要素と指導法の概要 2-2. 議論の評価と学習者の参加 2-3. 議論の種類による指導法 3-1. 初級レベルにおける議論の指導法 3-2. 中級レベルにおける議論の指導法 3-3. 上級レベルにおける議論の指導法

科目名	口頭発表の指導法
担当講師	深澤のぞみ 金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
授業の目的・目標	<p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした口頭発表ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミック・ジャパニーズとは何かを説明できる ・口頭発表とアカデミック・ジャパニーズの関係を説明できる ・口頭発表の性質を説明できる <p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした口頭発表ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口頭発表の指導法の概要を説明できる ・口頭発表の評価法について説明できる ・口頭発表における学習者の参加の方法を説明できる <p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした口頭発表ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級レベルの口頭発表の指導法を説明できる ・中級レベルの口頭発表の指導法を説明できる ・上級レベルの口頭発表の指導法を説明できる
授業内容	1-1. アカデミック・ジャパニーズとは何か 1-2. 口頭発表の性質 1-3. 口頭発表の教育 2-1. 口頭発表の構成要素と指導法の概要 2-2. 口頭発表の評価法 2-3. 口頭発表における学習者の参加の方法 3-1. 初級レベルにおける口頭発表の指導法 3-2. 中級レベルにおける口頭発表の指導法 3-3. 上級レベルにおける口頭発表の指導法

科目名	大学院進学希望者への指導法
担当講師	林千賀 城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院進学希望者の増加傾向について理解できる ・ 大学院進学のための事前準備について理解できる ・ 失敗事例と課題から教材について理解できる ・ プレアカデミック・スタディプログラムの教材のリソースについて理解できる。 ・ 自律学習と教師のアドバイジングについて理解できる。
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院進学希望者の増加とアドバイジングの目的と対象 ・ 大学院進学のための事前準備とその心得 ・ 失敗事例と課題から教材を考える ・ プレアカデミック・スタディプログラムとは ・ プレアカデミック・スタディプログラムプロジェクトワークと研究計画書のアドバイジング ・ 研究計画書・論文を書くための教材

科目名	評価法
担当講師	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語教師に必要な、言語テストの基本的な機能と役割、特徴が理解できる。 ・ 日本語テストが測定可能な日本語に関する知識や運用能力について説明できる。 ・ 信頼性と妥当性を意識したテストが作成できる。 ・ 公平な評価を行う際の留意点について理解できる。
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語テストの種類 ・ 教室内・教師作成テストの目的 ・ よいテストの基本要件 ・ 言語テストの条件 ・ テストの種類／分類の視点 ・ テストの目的 ・ 教師作成テストの実際 ・ 評価方法はどうしたらよいのか ・ テストの可能性と限界

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語力レベル ・測定対象知識・能力／出題形式／解答形式／課題 ・言語テストの形式と採点方法 ・言語テストの対象領域 ・テスト作成の実際 ・教授項目中心テストの問題点 ・テスト開発における留意点 ・テスト得点に影響を与える要因 ・評価はテストだけではない ・評価における最近の動向 ・代替アセスメント ・評価方法の多様化 ・よりよい教育実践のために
--	---

科目名	自己点検
担当講師	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
授業の目的・目標	<p>教師として成長するために、日本語教育の専門家の立場から、自己点検を適切に、かつ、継続的に行う力を身につける。</p> <p>〔「自己点検1」の目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場で望まれる教師について知る。 ・教師として成長するためのフレームワークと自己点検の位置づけを知る。 ・自己点検表について知る。 <p>〔「自己点検2」の目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料2】「自己点検表－授業－」の点検項目について理解を深める。 ・【資料3】「自己点検表－教師としての取り組み」の点検項目について理解を深める。 ・専門的な立場から、自律的に自己点検が行う力を身につける。
授業内容	<p>1-1. 現場で望まれる教師と自己点検の目的</p> <p>1-2. 「自律的成長型教師」について</p> <p>1-3. 他の教師モデルと「自律的成長型教師」</p> <p>1-4. 成長のためのフレームワークと自己点検表</p> <p>2-1. 「自己点検表－授業－」</p> <p>2-1-1. 「自己点検表－教師としての取り組み」</p>

	2-1-2.自己点検表とポートフォリオ 2-3. 教育の現場での事例
--	---------------------------------------

5-3-3. オンライン参加型研修／自己研修

オンライン参加型研修は、下記の日程で行った。

8月28日（土）、9月4日（土）、10月2日（土）、10月16日（土）、10月30日（土）
11月13日（土）、11月27日（土）

*前半 9:00～10:30、後半 10:40～12:10 ※11月27日は前半のみ

オンライン参加型研修等スケジュール		
日程	時間	科目等
2021/7/10（土）	9:00-10:30	オリエンテーション*単位対象外
8/28（土）	9:00-10:30	ケーススタディ
	10:40-12:10	論文の指導法
9/4（土）	9:00-10:30	ケーススタディ
	10:40-12:10	音声の指導法
10/2（土）	9:00-10:30	留学生の就職指導
	10:40-12:10	議論の指導法
10/16（土）	9:00-10:30	メンタル・カウンセリング
	10:40-12:10	口頭発表の指導法
10/30（土）	9:00-10:30	留学生のための教材・教具のリソース
	10:40-12:10	自己点検
11/13（土）	9:00-10:30	評価法
	10:40-12:10	
11/27（土）	9:00-10:30	振り返り
	10:40～	修了式*単位対象外

講師は「4-3-5. オンライン参加型研修科目／自己研修課題」参照

オンライン参加型研修の担当講師と受講者に対しては、研修前日までに eden 内とメールで研修のリマインドを行った。研修当日は開始 5 分前にマイクテストを兼ねて出欠を取るようにした。研修中は常にカメラをオンにすることとし、事務局で定期的に状況を確認し、研修後は Zoom のレポート機能で参加状況を確認して出欠を確認した。遅刻については開始後 10 分まで認めることとした。

【各講義の内容】

日時	2021年8月28日(土) 9:00~10:30
科目名	演習 ケーススタディ 1
担当講師	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
受講者	20名
授業の目的・目標	教育現場における「実践力」を向上させるために、授業を分析する視点を養う。
授業内容	<p>① 熟達した教師と初任の教師との視点の違いについて解説する。</p> <p>② 全養協「日本語教師検定」で出題された授業映像視聴問題の映像を用いて実際に授業分析を行う。</p> <p>③ 個々に映像の授業の問題点を整理した後、グループでその問題点について意見交換、及び検討を行う。</p> <p>④ グループワークで確認された授業の問題点、及び、検討結果を発表する。担当講師がそれらに対してフィードバックをする。</p> <p>⑤ 授業のまとめ</p>

日時	2021年8月28日(土) 10:40~12:10
科目名	演習 論文の指導法 *eラーニング研修あり
担当講師	宇佐美洋 東京大学 大学院総合文化研究科 教授
受講者	19名
自己研修課題 (事前課題)	<p>【課題 1】</p> <p>「論文の指導法 1」の講義のなかで、「いい問い」を立てることの重要性について述べました。講義で述べている「いい問い」の条件を踏まえながら、「初級後半から中級前半にかけての段階で作文を書いてもらうにあたっての、『いい問い』を含んだ作文課題の例」を具体的に考えてみてください。また、その課題が備えている特徴や、課題を考えるにあたって工夫したことなどを具体的に挙げたうえで、それがなぜ「いい問い」と言えるのかの理由を書いてください。</p> <p>※「初級後半から中級前半」とは、「日常的で具体的な文脈における単純なタスクであれば、独力で、あるいは周囲からの手助けを借りながら遂行可能なレベル」を指します。</p> <p>※課題の文は、上記レベルの学習者に十分理解できるような表現・表記で書いてください。(「いい問い」といえる理由についてはその限り</p>

	<p>ではありません)。</p> <p>【課題 2】</p> <p>「論文の指導法 1~3」の講義を視聴して考えたこと、感じたことや、担当者に対する質問等を自由にご書いてください。</p>
授業の目的・目標	<p>① ある問いについて答えようとする中で、問われた者にはどのような思考が起こるのかを、受講者自身が考えた「問い」に実際に答えてみることで体感する。</p> <p>② 問いに対する答えが他者にどのような気付きをもたらすのかについて話し合い、「いい問い」の意味について理解を深める。</p>
授業内容	<p>① 事前課題として挙げた『『いい問い』を含む作文課題』からいくつかのものを選び、その課題に対して具体的な回答を書いてみる。</p> <p>② 「問いに対し楽しみつつ答えることができたか」「実際に書かれた回答は、読み手の関心を引くものになっていたか」について、小グループに分かれて話し合う。</p> <p>③ 「いい問い」とはどういう問いであるかを、自分のことばでまとめ直すとともに、「いい問い」を立てるためにはどのような工夫が必要になるかについて、気付きを共有する。</p> <p>④ その他、事前課題として提示された「講義内容への質問」に対し、適宜回答するか、あるいはその質問について、「自分ならどう回答するか」を小グループで話し合う。</p>

日時	2021年9月4日(土) 9:00~10:30
科目名	演習 ケーススタディ 2
担当講師	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
受講者	21名
授業の目的・目標	※演習 ケーススタディ 1 の続きのため割愛
授業内容	※演習 ケーススタディ 1 の続きのため割愛

日時	2021年9月4日(土) 10:40~12:10
科目名	演習 音声の指導法
担当講師	生方哲男 東京中央日本語学院 教務部長
受講者	21名
事前課題	事前の提出は不要。授業内で意見交換をするため、授業までに各自準備しておく。 【課題の内容】 ①日本語の発音について考えたり調べたりしてみてください Q:日本語の発音は、簡単である・難しい。 Q:日本語のアクセントにはどんな機能がありますか。 ②日本語学習者の発音について考えてみてください Q:日本語学習者への発音指導は、必要である・必要ではない。 Q:日本語学習者は発音指導を、必要としている・必要としていない。 ③日本語の発音指導を行う際について考えてみてください。 Q:発音指導を行う場合、いつから行うといいと思いますか? その理由は? 1)初級 2)初中級 3)中級 4)上級
授業の目的・目標	発音指導をする際に、どんな知識が必要で、どこに気をつけてどのように指導をするといいのかを理解し、身につけてもらう。
授業内容	①アイスブレイク:自己紹介と事前課題について意見交換 ②単音(母音・子音)について ③リズムについて ④アクセント(単純語のアクセントと複合語のアクセント)について ⑤イントネーションについて ⑥発音指導・発音練習について

日時	2021年10月2日(土) 9:00~10:30
科目名	留学生の就職指導 *eラーニング研修あり
担当講師	小田金欣也 株式会社ベスト・コミュニケーションズ 総務部長
受講者	20名
授業の目的・目標	留学生への就職始動の流れと留意点を理解し、実践につなげようという気構えを身に付ける。
授業内容	日本の就職活動を理解する

	① 就職活動のスケジュール ② 選考方法 日本語レベルの重要性、在留資格の変更、個別スケジュールの設定、活動方針の決定
--	---

日時	2021年10月2日(土) 10:40~12:10
科目名	演習 議論の指導法 *eラーニング研修あり
担当講師	深澤のぞみ 金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
受講者	21名
自己研修課題 (事後課題)	参加型研修中にグループで考えた議論のテーマのうちの1つを用いて、実際の授業計画を立てる。1枚のスライド(パワーポイント)にまとめる。 ① 初中級レベルのクラス(20人)で、3コマ(45分×3コマ=3単位時間)を上限とする。必要に応じて、宿題を出してもよい ② 授業コマごとに学習者が何をするかをまとめて記述。 ③ 留意すべき点や評価の仕方にも簡単に触れる。
授業の目的・目標	議論の指導法の基礎を確認した上で、実際に実施する授業計画案を作成する。
授業内容	① eラーニングで学んだ基礎事項の確認。(15分程度) ② 留学生に対する指導では、初級、初中級から「議論」を授業に取り入れていくことが重要であることを確認し、指導法の工夫で、十分に可能性があることを伝える。(10分程度) ③ 初中級レベルのクラスでできる「おすすめの議論テーマ」を2つ、ブレイクアウトルームで検討し、提案する。 ・ブレイクアウトルームは、5人×4グループ(1つのグループは6人)。司会と書記を最初に選んでもらい、検討開始。(出入りも含め25分) ・テーマの1つは賛否が分かれるテーマ、もう1つは自由テーマ。テーマを決めた理由も。 ④ ブレイクアウトルームを出てきて、グループで考えたテーマを発表し、皆で共有。(10分) ⑤ 講評とまとめ(20分) ⑥ 課題の説明と質疑応答(10分)

日時	2021年10月16日(土) 9:00~10:30
科目名	留学生の異文化受容・適応 メンタル・カウンセリング *eラーニング研修あり
担当講師	林千賀 城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
受講者	20名
自己研修課題 (事前課題)	課題1:勤めている学校では、どのような支援があるか。紹介してください。 課題2:あなたの勤める日本語学校や日本語教室で、先輩の先生や事務局から見聞きした日本語学習者のメンタルヘルスの事例はどんなケースがありましたか。2事例ほど、集めておいてください。 課題3:あなたが担当する学生の行動や言動が最近、変だと感じるようになりました。あなたは、何をすべきですか。考えておいてください。
授業の目的・目標	「メンタルヘルス」について考える
授業内容	① 「メンタルヘルス」と異文化コミュニケーション ② ワークショップ ディスカッション1、2、3 ③ 振り返り

日時	2021年10月16日(土) 10:40~12:10
科目名	演習 口頭発表の指導法 *eラーニング研修あり
担当講師	深澤のぞみ 金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
受講者	19名
自己研修課題 (事前課題)	口頭発表を学期のまとめの発表のような扱いではなく、日常の授業での練習として取り入れるためのアイデアを1つ考える。Wordで1枚程度にまとめる。 ① 具体的には『みんなの日本語 初級II』の中の課にある文型を選び、練習の一環として行う口頭発表の活動を考案する。 例)『みんなの日本語 初級I』18課 「Nができます・Vすることができます」の文型を使って、家族のうちの一人についての短い作文を書く。例えば、わたしの母はりょうりがじょうずです。くにのりょうりができます。はるまきを つくることができます。・・・」。その後、それを皆の前で発表する。「私の母について、話します。・・・以上です。ありがとうございました。」

	② 必要に応じて、板書の指示や使用するワークシートがあれば、適宜それらの説明もする。
授業の目的・目標	口頭発表の指導法の基礎を確認した上で、実際に実施する授業計画案を作成する。
授業内容	<p>① eラーニングで学んだ基礎事項の確認。(15分程度)</p> <p>② 留学生に対する指導では、初級、初中級から「口頭発表」を授業に取り入れていくことが重要であることを確認し、指導法の工夫で、十分に可能性があることを伝える。(10分程度)</p> <p>③ 課題で考えてきた初級後半のクラスでできる口頭発表のアイデアをブレイクアウトルームで共有して、質疑応答をする。 ・ブレイクアウトルームは、前回と同じメンバーの5人×4グループ(1つのグループは6人)。司会と書記を最初に選んでもらい、検討開始。(出入りも含め25分)</p> <p>④ ブレイクアウトルームを出てきて、グループで出たアイデアを発表し、皆で共有。(15分)</p> <p>⑤ 講評とまとめ(20分)</p> <p>⑥ 質疑応答(5分)</p>

日時	2021年10月30日(土) 9:00~10:30
科目名	メディアリテラシーと情報—留学生のための教材・教具のリソース *eラーニング研修あり
担当講師	尾本康裕 城西国際大学 留学生別科 准教授
受講者	17名
授業の目的・目標	オンライン授業とそのツールについて学ぶ
授業内容	<p>① オンライン授業について簡単に解説</p> <p>② オンライン授業を行うツールについて解説 ウェブ会議ツール(Webex、Zoom、teamsなど)</p> <p>③ オンデマンド型授業のためのツールについて解説 ・youtubeの動画の利用、パワーポイントに音声を挿入、簡単な記入可能なpdf ・フォームについて ・Googleフォーム、マイクロソフトフォームについて解説 ・中国でも使えるツールについて</p> <p>④ 作成方法について簡単に学ぶ</p> <p>⑤ 採点方法、集計について簡単に解説</p>

	⑥ まとめ
--	-------

日時	2021年10月30日(土) 10:40~12:10
科目名	自己点検 *eラーニング研修あり
担当講師	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
受講者	18名
自己研修課題 (事前課題)	① 自身の授業を録画する。 ※日本人を学生役にした模擬授業も可 ※録画する授業のコマ数は自由 ② 録画した授業を視聴し、eラーニング教材「自己点検1・2」の【資料2】「自己点検表-授業-」を用いて自己点検を行う。 ③ 自己点検を行った「自己点検表-授業-」はメール添付で提出する。 ④ ②で行った自己点検から自身の授業の問題点を洗い出し(See)、改善計画を立て(Plan)、その計画を実行する(Do)。 ※計画の実行(Do)ができない場合は、改善計画を立てる。 ※(Plan)ところまででよい。
授業の目的・目標	日本語教育人材に求められる資質・能力を把握しながら、成長し学び続けられる日本語教師について考える。
授業内容	① 自身の授業の問題点とその問題点をどのように改善したか/改善しようとしているか自身のPDS)について情報を共有する(グループワーク)。 ② 各グループで共有された内容の発表、講師からのフィードバック ③ 【資料2】「自己点検表-授業-」を用いて、教師として成長するために留意すべき点について確認する。

日時	2021年11月13日(土) 9:00~12:10
科目名	演習 評価法 *eラーニング研修あり
担当講師	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
受講者	19名
自己研修課題 (事前課題)	【課題1】過去に受験したテストの中で、「いいテスト」「悪いテスト」とは、どんなテストでしたか。具体的に記述(箇条書き)して、事前

	に提出してください。 【課題2】テスト問題を作るために、どんな留学生にどんな日本語を教えることになるかを想定した上で、学習目標を「Can-Do (～できる)」の形で記述して、事前に提出してください。
授業の目的・目標	eラーニングで学習した理論面の知識を、実際のテスト作成に活用することを目的とし、評価リテラシーの向上をめざす。
授業内容	① 事前【課題1】について共有し、信頼性・妥当性・実用性の概念について確認する。 ② 事前【課題2】について共有し、教育目標を念頭においたテスト開発の大切さを理解する。 ③ パフォーマンステストである OPI の音声を聴いて、学習者の日本語能力の測定を試みる。その際に評価の観点、評価の基準、また評価の方法をどのようにするかを考察し、将来のテスト作りのヒントを得る。 ④ 代替アセスメントの目的について共有する。

日時	2021年11月27日(土) 9:00～10:30
科目名	演習 振り返り
担当講師	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
受講者	19名
自己研修課題(事前課題)	修了レポート「研修を通して学んだこと」を作成する。 ※字数 1200字～1600字 ※修了レポート(2単位時間)は修了要件の一つである
授業の目的・目標	教師としての在り方、および、教師としての成長の方向性を考える。
授業内容	① グループに分かれ、「演習 振り返り」の課題である研修レポートに自身が述べた内容について、グループで情報共有を行う。 ② グループで共有された情報(特徴的なもの)について発表する。 ③ 研修レポートについて担当講師からのフィードバック〔レクチャー〕 ④ もう一つの自己点検 「自己点検—教師としての取り組み」の点検項目について ⑤ 成長し続けるために

5-4. 評価ツール

5-4-1. セルフチェックシート

Google フォームを使用し、受講生が自己評価を目的に使用するシートを作成した。

『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成 31 年 3 月 4 日）表 3「留学生に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」をもとに、「知識」、「技術」、「態度」などの項目別に、研修生自身がどの程度実践できると認識しているか自己評価する内容となっており、研修開始時と研修修了時の 2 回、回答を求めた。

セルフチェックシートの項目及び回答は以下の通りである。

【実施時期】：研修開始時…2021 年 7 月 10 日 研修修了時…2021 年 11 月 22 日～26 日

【回答件数】：20 件（有効回答率 100%）

カテゴリー		質問	上がった	変化なし	下がった
知識	留学生に対する教育実践の前提となる知識	キャリア支援の視点を持ち、それぞれの専門分野の学習に必要なとなる日本語指導を実施する上で必要な知識を持っている。	80%	20%	0%
		進学や就職に必要なとなる試験や、その内容を指導するために必要な知識を持っている。	75%	25%	0%
		ICT等の多様なリソースを活用した指導を行う上で、必要な知識を持っている。	65%	25%	10%
		言語習得に関する実践的な知識を持っている。	65%	25%	10%
	日本語の教授に関する知識	学習者が他者と協働し、自律的かつ主体的に学んでいけるようにするために必要な知識を持っている。	75%	20%	5%
技能	教育実践のための技能	日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的観点から見て適切な指導計画を立てることができる。	80%	10%	10%
		キャリア支援の視点を持ち、それぞれの専門分野の学習に必要なとなる日本語能力を身に付けるための効果的な指導ができる。	85%	15%	0%

	成長する日本語教師になるための技能	指導計画に基づき実践した授業や教育活動を分析的に振り返り,改善と新たな実践のための検討ができる。	85%	5%	10%
態度	言語教育者としての態度	複数の教師でクラスを担当するチームティーチングについて理解し,教師間で連携・協力を図ろうとする。	65%	15%	20%
		日本語学習だけでなく,進路選択に関しても担当者と連携し,多様な関係者と共に関わり,指導を実践しようとする。	80%	10%	10%
	学習者に対する態度	学習者の自律学習を促進し,主体的に学ぶ力を育てようとする。	75%	15%	10%
態度	文化多様性・社会性に対する態度	留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化に関心を持つようとする。	60%	15%	25%
		学校外の地域社会や他者とのつながりを持つことの意味を理解し,社会とつながる機会提供に努めようとする。	40%	30%	30%

5-4-2. 受講者アンケート

今後、継続的に研修を実施していく際の参考にするため、研修修了時に受講者アンケートを行った。研修の内容の他に、運営方法など研修全体に関する内容となっており、Googleフォームで作成し回答を求めた。

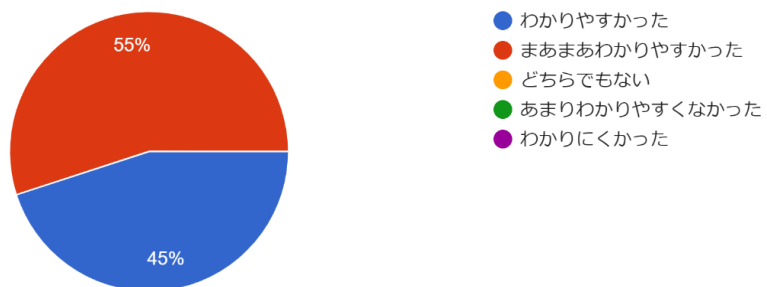
アンケートの項目及び回答は以下の通りである。

【実施時期】：2021年11月22日～26日

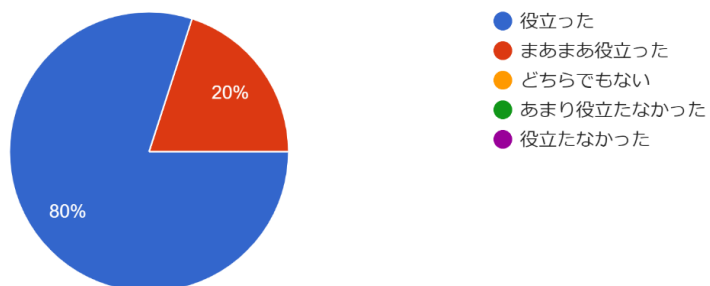
【回答件数】：20件（有効回答率100%）

eラーニング研修について

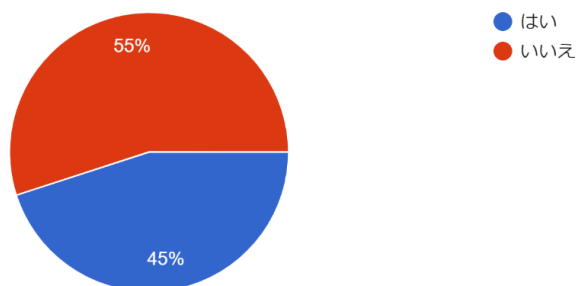
講義はわかりやすかったですか



講義は自分自身の成長に役立つものでしたか。



(eラーニング研修のみの科目で) オンライン参加型研修でも講義を受けたいと思った科目はありますか。

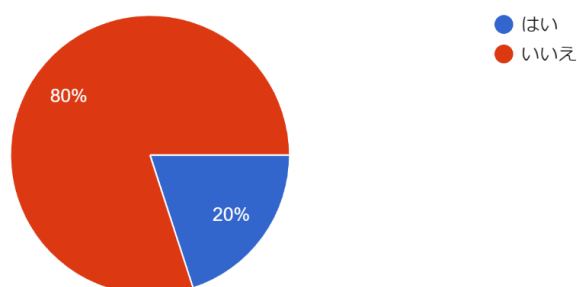


(「はい」の方のみ) 科目名を教えてください。(9件の回答・複数回答あり)

・統計処理 1

- ・留学生のための教材・教具のリソース 1
- ・対象レベル別指導法 1
- ・日本語の試験に関する各種講義 1
- ・漢字・語彙の指導法 5
- ・著作権 2
- ・異文化間トレランス 1

(オンライン参加型研修と連動する科目で) eラーニング研修の講義のみで十分に学べたという科目はありますか。



(「はい」の方のみ) 科目名を教えてください。(4件の回答)

- ・日本の留学生受入れ施策
- ・留学生のための教材・教具のリソース
- ・音声の指導法
- ・JLPT と EJU について

その他、eラーニング研修について、ご意見がございましたらご記入ください。

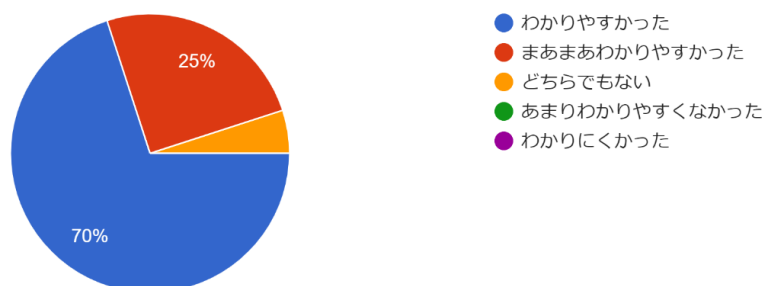
- もし可能であれば期間限定でも、研修終了後に振り返り・復習等で eラーニング視聴を検討いただけませんか。
- ものすごい興味のある役立つ勉強が、自分の都合のいい時間にできるというメリットは素晴らしいと思う。
- システム上難しいことだとは思いますが、研修終了後 1～3 か月程度再度視聴が可能にしたいです。
- 合成音声の講義はイントネーションなどが気になり集中しにくかったです。講師の方でなくてもいいので「人」の声で聞けた方がストレスなく受講できたと思います。
- 日本語教育の授業でロボット音声というのはかなり違和感がありました。受講者同士が交

流できる仕掛け、場などが用意されているとよかったように思います。また、メールアドレスや zoom のログインなどはコピーペーストできるよう、メールかテキスト添付をしていただければ、と思いました。細かい点ですが、授業動画の 1 部に音声が入っていないものがありました。(途中 1 ページ分です。どの授業かは失念しました。) すみません、色々書きましたが、実際に授業を始めてからの研修は非常に学びが多く、実際に授業ですぐに使えるものも多くありがたかったです。

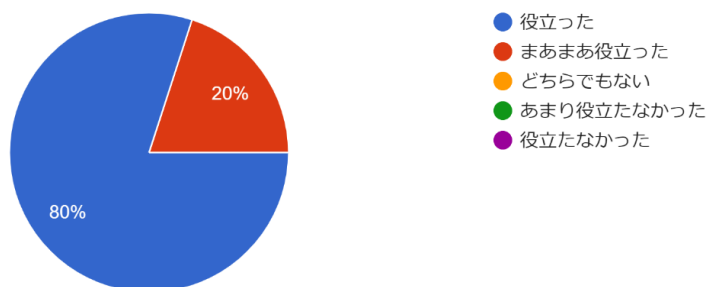
- 合成音声による動画が多かったが、読み方が単調でいまいち内容が入ってこないことが多かったため、実際に先生方がお話になっていただけるとよりわかりやすかったと感じました。また、スライドの文字数が多くノートを取るのにとても苦労したため、スライド資料を配布などしていただけると内容の理解に集中できただろうと思いました。
- 教師同士で協働して授業を考えるオンライン参加型研修があれば、面白いと思いました。「漢字語彙の指導法」などで、実際に導入語彙を与えられ、どう教授するのか各教師ごとにアイデアを出し合いながら 1 つの小さな授業を作っていくことで、多くの学びと発見が得られるのではないかと思います。
- 資料がほしかったです
- 全体的にとっても良かったが、再生倍速を選べたら更に良かった。
- できれば合成音声ではなく、直接先生方の講義を聞きたかったです。科目により合成音声にも差がありましたが、変なアクセントが気になった科目がありました。

オンライン参加型研修について

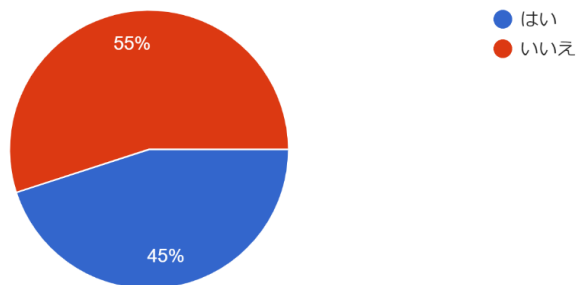
オンライン参加型の研修は分かりやすかったですか。(20 件の回答)



オンライン参加型の研修は自分自身の成長に役立つものでしたか。(20件の回答)



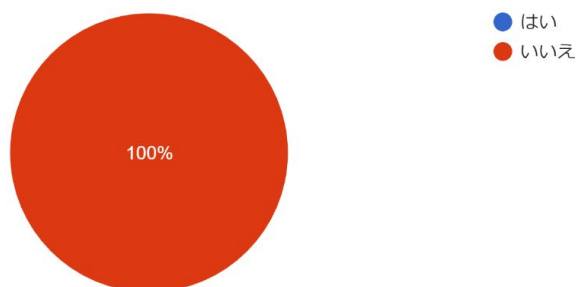
(オンライン参加型研修のみの科目で) eラーニング研修でも講義を受けたいと思った科目はありますか。(20件の回答)



(「はい」の方のみ) 科目名を教えてください。(9件の回答・複数回答あり)

- ・ ケーススタディ 2
- ・ 音声の指導法 6

(eラーニング研修と連動する科目で) オンライン参加型研修の講義のみで十分に学べたという科目はありますか。(20件の回答)

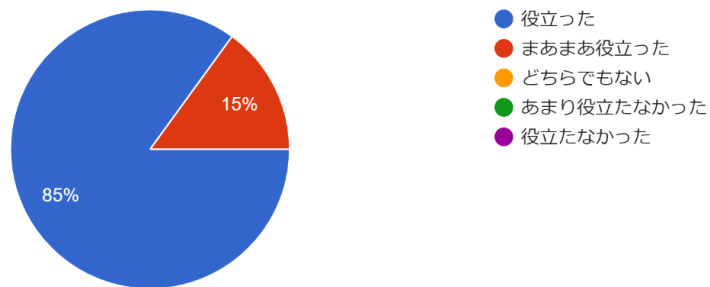


その他、オンライン参加型研修について、ご意見がございましたらご記入ください。(10件の回答)

- グループワーク中心に学びを深めることができ、よかったです。
- 時間が限られていたため仕方ないですが、先生方が用意してくださったスライド全てを確認することができなかった科目がいくつかあったのが少し残念でした。授業内や授業後に要約したもので良いので資料の共有があれば授業で取り扱えなかった部分も確認できてよりよかったですと思います。
- 時間不足を訴えていらっしゃる先生が多かったように思います。もう少し時間があれば、と思います。
- いくつか e ラーニングの内容の復習が主だったオンライン研修がありましたが、復習は各自で行えることだと思うので、それよりもグループディスカッションなど参加できる内容が多いほうが私は参加していて楽しかったです。また、終了が押してしまうことが何度かあったので、時間管理はしっかりしていただけるとありがたいなと感じました。
- 時間の確保は大変でしたが、参加型研修の方が講義に集中して講義を聞け、また多様な考えを聞くことでさらに考えを深めることができよかったです。
- もう少し参加型を増やしたり、受講生との意見交換の時間があればいいなと思った。
- ブレイクアウトルームの参加者はランダムだと思うのですが、1度も一緒にならない方が多かった気がしました。5.6人はお話してない方がいると思うので、少し残念です。
- 参加型研修の時間がずれたり、のびたり、間違っって認識されていたりしていたようなので、その点は徹底していただきたいです。可能であれば、参加型研修後にも講師とやりとりができるようなフォーマットがあれば大変ありがたいです。
- スライドの資料がほしかったです。メモしきれませんでした。
- 他の参加者と連絡を取れたらもっと、アクティブに学べたかもしれない。

自己研修について

自己研修は自分自身の成長に役立つものでしたか。(20件の回答)

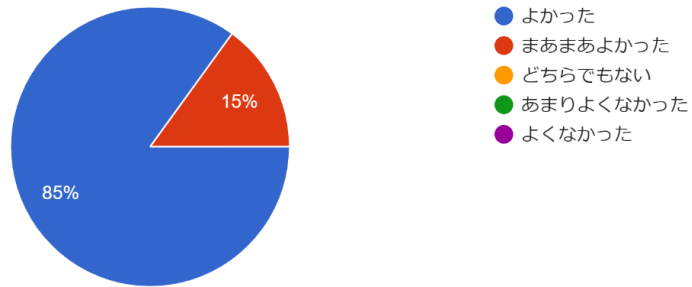


その他、自己研修について、ご意見がございましたらご記入ください。(6件の回答)

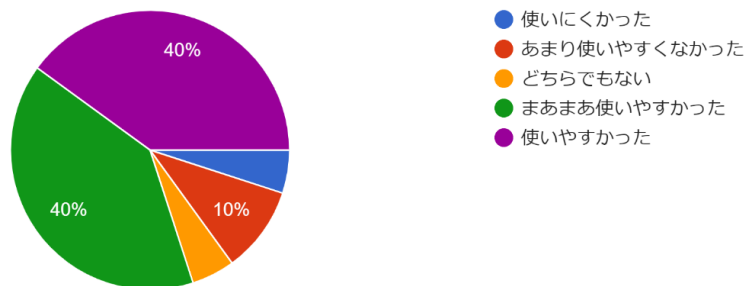
- 未経験でありながら参加させていただきました。もう少し同じ境遇の方がいらっしゃったら、就職先の探し方などについても考えてみたかったです。
- オンライン参加型授業で意見を交換したり自分が取り組んだ課題に対するフィードバックをいただくこともできたのでとても役に立ちました。
- 自身の授業を撮影し、見返すという作業は、苦痛を伴いますが非常に勉強になりました。
- カウンセリングの自己研修で先輩などに事例を聞くものが印象に残っています。自分の気をつけなければいけないことを勉強できました
- 修了レポートにも書きましたが、最後に大きな振り返りをするだけでなく、一枚で見れるような毎月毎や隔月のこまめな振り返りを実施し、定期的に原点に立ち返れる作業があるとより学びが深くなるのではないかと思います。
- 今後の日本語教師としての歩みには欠かせない内容でした。ありがとうございました。

研修全体を通して

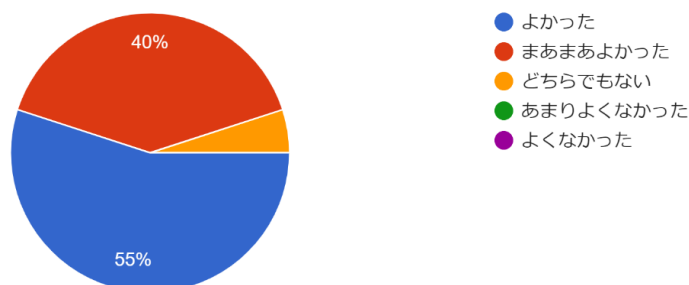
この研修を受講してどうでしたか。(20件の回答)



eラーニングシステムは使いやすかったですか。(20件の回答)



e ラーニング研修（50 単位時間）、オンライン参加型研修（26 単位時間）そして自己研修（14 単位時間）の構成はどうでしたか。（20 件の回答）



研修全体を通じて、ご意見・ご感想等おありでしたら、ご記入ください。（15 件の回答）

- 細かいことですがすみませんが研修科目一覧が全体を 1 枚で見られるのありがたいのですが字が小さくて読みにくかったです。できましたらプリントアウトしても読めるような形がありがたいです。
- 基本、こんなことを知らなかったのか、ということをとくさん知ることができて、(例えば、ネットで教材が色々あることとかエクセルの機能とか、知らないことを知らなかったことをとくさん) 今後のフックとなると思うが、フックを持って振り返りたいとき、その動画などが、見られなくなってしまって、残念だ。動画をずっといつでも見られるようだったら良いのになと思う。
- 様々な講師の先生方の講義を受講できて非常に貴重な機会をいただけたことに感謝しております。また、この研修を計画しお作りになり、これだけの先生方を揃えて下さった全養協事務局の方々にも感謝申し上げます。また、オンライン研修で日本語教師歴が同じぐらいの方々和交流できたこともいい経験となりました。ありがとうございました。
- お世話になりました。オンラインでのつながりでドライに感じる部分もありましたが、それでも自分の学びのきっかけにできて非常によかったです。ありがとうございました。
- この研修を通じて様々な新たな知識を得られたこと、初任教师の方々と一緒に勉強できたことは大変貴重な経験であったと思っています。コロナ禍だからこそのオンラインという形態のおかげで居住地域に関係なく参加できたので地域ごとに日本語学校での学生への対応の仕方の違いを比較でき面白かったです。また、この研修を進めながらより日本語教育への関心が増したので参加して本当に良かったです。まだ教師としての経験がない学生にも関わらず参加を認めてくださり、そして今までになかった視点から日本語教育を考えるきっかけを与えてくださり心から感謝いたします。今回の経験は必ずこれからのキャリアにいかしていきたいと思っています。短い時間ではありましたが、皆様の下で勉強することができ大変光栄でした。ありがとうございました。

- 講義ビデオをノートしながら見ていましたが、すべてを完全に書き取ることはできません。多くの貴重な情報を、必要なタイミングで今後何度も見返せるよう、仕組みを考えていただけると幸いです。おかげさまで受講前には想像もしなかったような実践的で多くの学びを得ることができました。素晴らしい授業をご用意いただいた先生方に、心より感謝いたします。
- 大学では勉強してこなかった実践的な知識や技能を習得することができ、非常に有意義な研修でした。特にオンライン参加型研修では、他の受講生の方と意見交換する場がたくさんあり、そこで得たアイデアをすぐに授業に活かすこともでき、とても役立ちました。また、同時期に日本語教育能力検定試験の勉強もしていたのですが、この研修の講義で扱われていた知識が過去問に出ていたりしてその点でも非常に役立ちました。この研修で得た知識を生かして今後も日本語教師として成長するために努力していきたいと思います。
- 現在の勤務先での指導内容、状況に直結しているものが多く、大変大きな学びとなりました。動画視聴のみの研修は、まだ吸収しきれない点も多く、もっと自分のものにしたい、と思う講義もありましたが、学ぶことの楽しさを改めて痛感すると共に、学び続けること、自身を振り返り改善し続けることの大切さを感じさせていただきました。機会があれば、また別の研修も受講させていただきたいと思っています。本当にありがとうございました！！
- eラーニングとオンライン参加型研修を組み合わせることで、時間や場所の制約を気にせずに効率よく学ぶことが出来て良かったです。各講師の皆さまと事務局の皆さまには大変お世話になり、有難うございました。
- 改めて自分の授業を振り返る機会が持てて良かったです。ありがとうございました。
- 最後は駆け足となってしまいましたが、たくさんの勉強をさせていただきました。とても勉強になることが多かったです。オンラインで色々な方と交流ができるのも新鮮でした。同じような悩みを持っている方や、新しいことに気付かされることも多く、大変貴重な時間でした。一方で自分で動画の進捗をコントロールする難しさと管理の甘さを痛感いたしました。予定をしっかりと立てること、無理をせずに済むようにすることは今後の課題としたいと思います。先生方、事務局の皆様、この度はありがとうございました。
- とても為になる研修でした。どうもありがとうございました。
- オンラインも対面も、資料をいただけたら、もっと良かったです。
- 先生方を含め、事務局の方の誘導やフォローがとてもきっちりされていて、安心して受講できました。内容、運営を含め、またこのような研修があれば是非参加したいと思えた。
- 全国の年齢も学校の環境も異なる皆さんとブレイクアウトセッションで話し、いろいろなお話を聞けたことはとても有意義でした。できれば、もう少し雑談の機会があったら嬉しかったです。これからも学ぶ姿勢を忘れずに、また機会があればこのような研修に参加したいと思います。いろいろお世話になり、ありがとうございました。

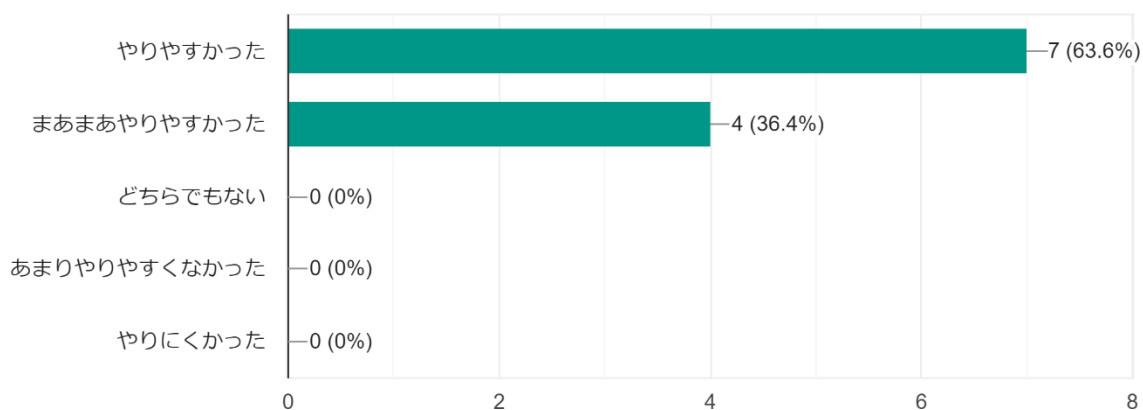
5-4-3. 研修記録

各科目の連動性や効率的な学習を目指して、より良い研修作りのために活用するため、オンライン参加型研修／自己研修担当講師に対して研修記録の記入を求めた。受講者の受講状況の他、実施体制に関する意見や感想を記入できるものとした。

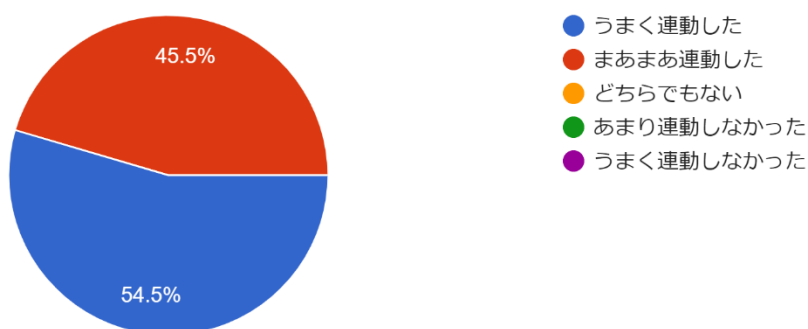
研修記録の項目及び回答は以下の通りである。

全養協 研修担当講師研修記録 集計結果 (回答 11 件)

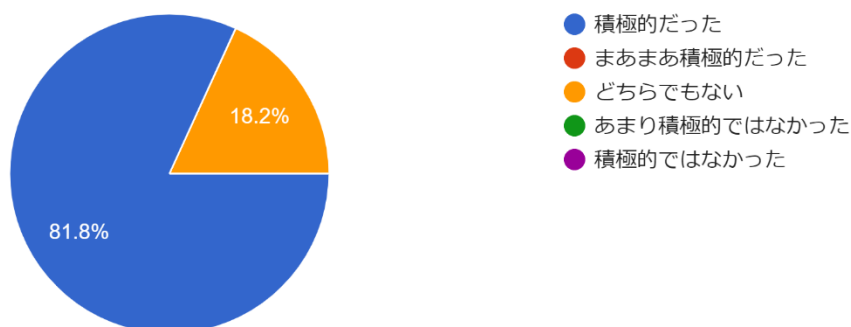
オンライン研修はやりやすかったですか



先行する e ラーニング研修との連動性はいかがでしたか



受講生の状況はどうか



その他、ご意見・ご感想等ありましたら、ぜひご記入ください

- 今回なぜか、ブレイクアウトルーム間の移動に非常に時間がかかり（ひとつのルームから退出するのに1分近くかかっていた。理由は不明）、多くのグループを巡回できず、ディスカッション内容を踏まえたコメントが十分にできなかったのがやや残念でした。しかしそれでも、各グループで自発的な議論が行われていたことは十分に推察できました。しかしディスカッション内容が、「どうしたら答えを書きやすい問いになるか」というところに集中していたところがやや気になりました。もちろん問いが、「答えを書きやすいものになっている」ということは、特に初級段階では大切なのですが、「オリジナリティのある答えを引き出す」ためには、あえてやや答えにくい問いを提示する、ということが必要になることもあります。しかし今回、そこまで十分に踏み込むことはできませんでした。もっとも、今回はたった90分だけの授業でしたので、まずは当初目的は達成できたように思いますが、このようなオンライン対面研修の場を繰り返し設定する、ということが非常に重要であるものと感じました。
- オンラインかどうかに限らず、活動を豊富に入れて、活動を通して習得できるスタイルが参加者には向いていると感じました。自身の授業に関して言うと、理論的な知識が思いの外少なかったと感じた。理論で60分・活動で30分と授業を組み立てたが、理論で90分・活動で90分くらい必要かと思いました。受講生の積極性をもっともっと生かした組み立てなければと反省しています。
- 今後の全養協の活動にも活かせると思います。
- 皆さん熱心に取り組んでくださり、ありがたかったです。
- スタッフのご協力のもと、実施が可能となりました。ご迷惑をおかけしながら、なんとか終了することができました。ありがとうございました。
- 受講生の方々が熱心に課題などにも取り組んでいただき、ありがたかったです。いい経験をありがとうございました。

- ハンズオンで後半は実習をする予定でしたが、時間がなくなってしまって申し訳なく思っております。もし別の機会があるのでしたら、2時間を説明に、2時間を実習にという形にできたらと存じます。
- 事前課題（自身の授業の自己評価と問題点の改善）があったので、この研修（科目）では、実践的な参加型授業ができたと思う。
- 活動をいくつか取り入れたため、時間配分でもう少し工夫が必要だった。ブレイクアウトルームの活動はすべてのグループの状況を同時に把握しづらいので、今後の進行では気をつける必要性のあることを感じた。
- 遠隔地の受講生同士が語り合う機会は、貴重なので、ブレイクアウトルームの時間を長く取れるように、もう1コマ分長くしてもよいと感じた。

6. 事業全体の成果の評価

留学生に対する日本語教師【初任】研修事業評価委員会（以下、事業評価委員会）を開催し、本事業で実施された研修内容を評価した。

研修事業評価委員会

・2022年3月8日

6-1. 事業評価委員会 実施報告

本事業について、研修受講者と担当講師の双方から得たアンケート結果等を評価ツールとして用いて成果の評価を行った。また、今後普及を予定している研修カリキュラム、教材等の効果的な修正に繋がるよう今後の課題、改善点の取りまとめを行った。

研修受講者、担当講師からのアンケート結果も加味して本研修を総括し、今後の課題を挙げる。

6-2. 研修のねらいの達成に関する評価

本研修では以下3つの狙いを挙げた。

- 1) 現職者がより受講しやすい研修
- 2) 主体的・協働的に学ぶ研修
- 3) 成長する日本語教師を育てる研修

以下、それぞれについての評価を記載する。

1) 現職者がより受講しやすい研修

「オンラインでのつながりでドライに感じる部分もありました」という声もあったが、「ものすごい興味のある役立つ勉強が、自分の都合のいい時間にできるというメリットは素晴らしい」「時間や場所の制約を気にせずに効率よく学ぶことが出来て良かった」「オンラインで色々な方と交流ができるのも新鮮」というように、有効性を実感する声が多く、感染症等に対しても安心して、継続して受講できる環境を提供し、国内外を問わず、様々な地域に暮らす方々の受講を可能なものとするという狙いは達成された。

2) 主体的・協働的に学ぶ研修

本研修では 50 単位時間に及ぶ e ラーニング科目を設け、専門家による各科目の動画教材による講義を受講し、各科目の理解度チェックテストを受けることで、受講者が主体的且つ自律的に受講を継続できる研修とした。

受講生からは「大学では勉強してこなかった実践的な知識や技能を習得することができ、非常に有意義な研修」という声や、「動画視聴のみの研修は、まだ吸収しきれてない点も多く、もっと自分のものにしたい、と思う講義もありましたが、学ぶことの楽しさを改めて痛感すると共に、学び続けること、自身を振り返り改善し続けることの大切さを感じさせていただきました」という声もあり、日頃指導する側である現職者が学ぶ側となって得られた気付きもあったようである。また、受講生が孤独感を感じることなく継続して学べるよう、不定期の WEB アンケートを実施し、他の受講生がどの程度 e ラーニング教材の視聴を行っているか、や、研修の意気込みを自由記述する機会を設け、お互いに意識し合って学べるよう配慮したり、受講が滞っている受講生には事務局からメールを送ったりする等の配慮をしたが、「事務局の方の誘導やフォローがとてもきちりされていて、安心して受講できた」という声もあり、主体的且つ自律的に受講を継続できる研修に繋がったようである。

しかしその一方、e ラーニングの解説音声に自動音声を採用した科目があったことから、「合成音声による動画が多かったが、読み方が単調でいまいち内容が入ってこないことが多かった」「合成音声の講義はイントネーションなどが気になり集中しにくかった」という声があった他、e ラーニング科目についても「受講者同士が交流できる仕掛け、場などが用意されているとよかった」という声もあり、e ラーニング科目に付随した協働的学びの機会を求める声もあった。

14 単位時間の自己研修を伴う 26 単位時間のオンライン参加型研修では、個人やグループ単位で課される課題について、他の受講生と協働して取り組むグループワークが組み込まれており、対面で接することがなくとも、他の受講生と協働的に学ぶ機会が多く設けられており、教育現場ではチームティーチングで指導に当たることが多い日本語教師として、連携、協力しようとする態度を育むことも意識した。

これについては、「グループワーク中心に学びを深めることができ、よかった」「集中して講義を聞け、また多様な考えを聞くことでさらに考えを深めることができよかった」と一

様に協働的学びに繋がったという声があり、「もう少し参加型を増やしたり、受講生との意見交換の時間があれば」という声や、「1度も一緒にならない方が多かった気がしました。5.6人はお話してない方がいると思う」というようにもっと多くの機会を望む声や、更に「講師とやりとりができるようなフォーマットがあれば大変ありがたい」というように、講師と直接コミュニケーションがとれる場を望む声もあった。

また、今回は著作権を懸念し、eラーニングの画面上のスライドやオンライン参加型研修での講師の画面上のスライドはその場限りとし、資料配布は行わなかったが、これについては「資料がほしかった」という率直な声が多かった。今後の課題である。

3) 成長する日本語教師を育てる研修

当法人が2006年から実施している全養協日本語教師検定や関連する講座やセミナー、関連教材を通して活用を促している自己チェックリストを活用し、受講生が、熟達した教師と初任の教師との視点の違いについて解説を通して理解し、全養協日本語教師検定で出題された授業映像視聴問題の映像を用いて実際に授業分析のポイントを把握し、オンライン参加型研修でも体験的に学んだ上で、自身の授業を分析的に内省するという自己研修を通して、研修後も成長できる内容を盛り込んだ。

これについても、「自身の授業を撮影し、見返すという作業は、苦痛を伴いますが非常に勉強になりました」「自分が取り組んだ課題に対するフィードバックをいただくこともできたのでとても役に立ちました」「今後の日本語教師としての歩みには欠かせない内容」といった声が多く聞かれ、今後の成長に繋がる気づきが得られたようである。

6-3. 研修内容に関する評価

本研修全体については、受講生から「よかった」(85%)、「まあまあよかった」(15%)という評価がなされており、「学びのきっかけになってよかった」「今までにない視点から日本語教育を考えることができた」「思っていた以上に実践的で多くの学びがあった」「勤務先での指導内容、状況に直結しているものが多く、大変大きな学びとなった」「大学では勉強してこなかった実践的な知識や技能を習得することができた」「日本語教師歴が同じくらいの方々と交流できてよかった」といった声があった。

研修全体をオンラインで行なったことについても、「eラーニングとオンライン参加型研修を組み合わせることで、時間や場所の制約を気にせずに効率よく学ぶことが出来て良かった」「オンラインなのでいろいろな地域からの参加者がいて、地域ごとに日本語学校での学生への対応の仕方の違いが比較できた」など効率性の良さや参加者の多様性について肯定的な感想が挙げられた。

本研修の科目は、

- ①動画を視聴するeラーニングのみで完結する科目

- ②オンラインによる同時双方向の対面研修のみで完結する科目
- ③eラーニングと連動してオンラインによる同時双方向の対面研修が開講される科目
- ④eラーニングとオンラインによる同時双方向の対面研修に加えて、自己研修課題が課される科目

の4つのタイプで構成されているが、eラーニング教材の作成やオンライン参加型研修を担当する講師とのコミュニケーションを密に取り、本研修の全体像とその狙い、各科目の位置付けについては事細かく擦り合わせを行い、教材の作成、研修の実施に繋げるよう心掛けた。

特に、eラーニング教材と連動するオンライン参加型研修についてはその連動性について特に留意し、eラーニング教材で事前に習得した内容の繰り返しにならないよう、反転授業としての発展性を意識したが、その点について受講生側からは、オンライン参加型研修の講義のみで十分に学べた科目があるかという問いに全員が「いいえ」と回答しており、講師側も先行するeラーニング科目とオンライン参加型研修の連動性について、程度の差はあるものの全員が「連動した」と回答していた。講師側からは受講生の積極的受講姿勢についての指摘も多く、想定した展開となったことが確認された。

受講生からは、eラーニングのみの科目について、オンライン参加型研修でも講義を受けたい科目として「統計処理」、「対象レベル別指導法」、「日本語の試験に関する各種講義」、「異文化間トランス」、「著作権」、「漢字・語彙の指導法」が挙げられた。また、eラーニング教材がないオンライン参加型研修のみの科目については、「ケーススタディ」、「音声の指導法」についてeラーニング教材を加えるよう要望が出ており、今後の研修実施の際の課題となった。

6-4. 受講生の変容に関する評価

本研修では、留学生への日本語教育の前提となる知識、実践的スキル、態度について、90単位時間という限られた時間の研修を通して、知識、スキル、態度を獲得するというよりも、協働的活動も通して理解を深め、将来的な獲得に繋がる基本姿勢の形成を図ることを目論んだが、研修開始時と修了時に「セルフチェックシート」の記入を求めている。

これは『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』（平成31年3月4日文化審議会国語分科会）の「留学生に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」の中の知識、スキル、態度について、まず研修開始時に受講生の自身に対する認識を確認し、問題意識を持って研修に臨み、研修終了時に改めて自身に対する認識を確認し、ほぼ5カ月の研修を通してどのような変容があったかを可視化して、更なる成長に繋げるという狙いで行なったものである。

具体的には、知識5項目、スキル3項目、態度5項目の計13項目について、「よくあてはまる」から「ほとんどあてはまらない」の5段階で回答するものである。

それによると、態度の内の文化多様性・社会性に対する態度に属する「学校外の地域社会

や他者とのつながりを持つことの意味を理解し、社会とつながる機会提供に努めようとする」という1点を除いた全ての項目で60%以上の受講生、項目によっては85%以上の受講生が研修開始時より段階が上がった、つまりプラス方向に変容したと回答している。あくまで自己評価ではあるが、そのような結果となった。40%の受講生しかプラスの変容をしたと答えなかった「学校外の地域社会や他者とのつながりを持つことの意味を理解し、社会とつながる機会提供に努めようとする」と同じく文化多様性・社会性に対する態度に属する「留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化に関心を持つようとする」という項目についても60%となっており、この2点については研修での取り上げ方を工夫することが課題として浮上した。

6-5. 今後の課題

これまでの研修総括においても触れているが、本研修では以下のような課題が明らかとなった。

- 1) 全体で90時間という制約はあるが、eラーニング科目の中で、「統計処理」、「対象レベル別指導法」、「日本語の試験に関する各種講義」、「異文化間トレランス」、「著作権」、「漢字・語彙の指導法」についてはオンライン参加型研修を加えてほしいという要望があり、「ケーススタディ」、「音声の指導法」についてはeラーニング教材を加えるよう要望があったので、構成、時間配分について検討すること。
- 2) eラーニング科目について、教材化の効率を優先させ、一部科目で合成音声を使用したのが、可能な限り講師の声で収録すること。
- 3) eラーニング科目についても受講生が協働的に学べる場を設け、そこに教材を作成した講師も加わって、より深い学びに繋がる場を提供すること。
- 4) オンライン参加型研修にも講師と個別にやり取りができるフォーマットを設けること。
- 5) 受講生からは同じ立場の日本語教師と交流できたという声がある一方、交流できた相手が限られるという声もあり、より多様な交流ができる場を提供すること。
- 6) eラーニング教材やオンライン参加型研修のスライド画面をダウンロードできるようにする等、研修資料を提供できるようにすること。